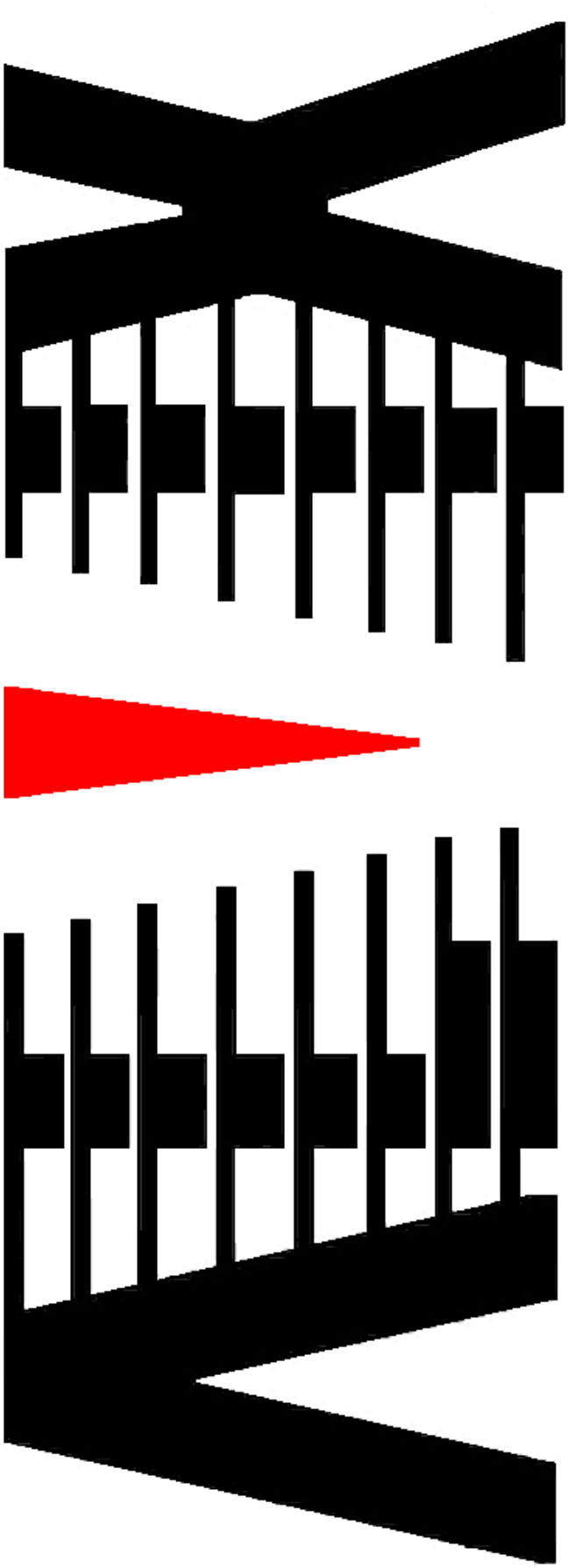
“アルビクス”「パカパカ」チェッカー　ＶＡＤ－３００

V/A ERROR DETECTION UNIT VAD-300

管理運用ソフトウェア

取扱説明書 Ｖｅｒ２．０８



目　次

１．概要 2

２．画面機能 3

２．１　メイン画面 3
２．２　システム情報設定 6
２．３　ＶＡＤ－ＩＰアドレス設定 7
２．４　監視しきい値設定 8
２．５　マスク値設定 15
２．６　アラームログ設定 16
２．７　アラーム音設定 17
２．８　映像キャプチャ設定 18
２．９　ログ設定 20
２．１０　ログ検索 21
２．１１　ログ削除 23
２．１２　測定レベル参照 24
２．１３　アラーム状態参照 25
２．１４　しきい値状態参照 26
２．１５　システムログ参照 27
２．１６　ＶＡＤ時刻参照 28
２．１７　ＶＡＤバージョン 29
２．１８　映像キャプチャ関連画面 30
２．１９　パトライト関連画面 33
２．２０　ファイル管理画面 36
２．２１　時刻補正画面 38
２．２２　動作モード設定画面 39

３．映像キャプチャ　ソフトウェア 40

３．１　概要 40
３．２　推奨動作環境 40
３．３操作説明 41
３．４　アプリケーションエラー 42

４．補足説明 43

５．資料 46

５．１　設定ファイル 46
５．２　初期設定値 48

６．検知作業手順 51

６．１　検知作業手順（バンク検知モード） 51
６．２　検知結果の保存 52
６．３　検知結果の閲覧 54

1．概要

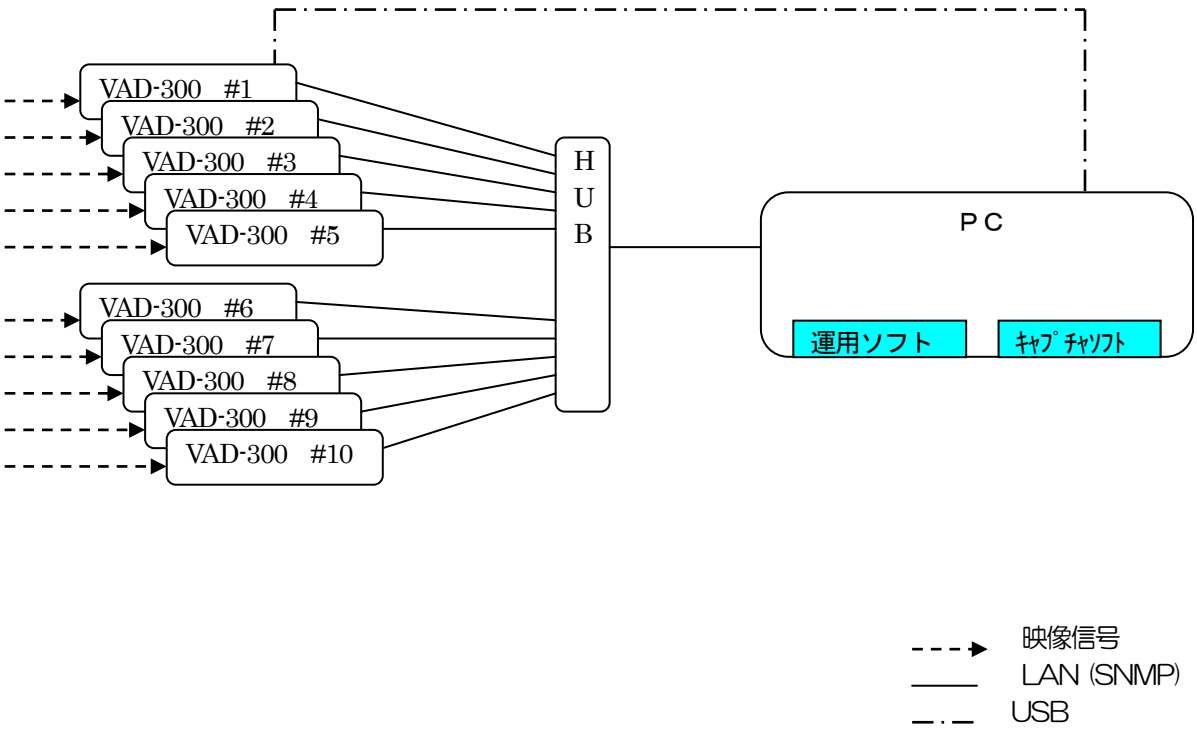
本書は「パカパカ」チェッカー(VAD-300)に添付されるソフトウェアについての取り扱いについて説明するものです。

ハードウェア(VAD-300)の取り扱いについてはハードウェアの取り扱い説明書を参照してください。

推奨環境

項目	制限条項
CPU	Intel　Pentium4　以上(AMD 製 CPU での動作は未確認です)
OS	Windows XP　SP2 以上(SP1 では動作しません) また、他 OS での動作は未確認です)
メモリ	1GByte 以上
HDD	回転速度 7200rpm 以上
モニタ	XGA（1024*768）以上
インタフェース	USB2.0 必須

システム構成



VAD-300 は最大 10 台まで１台のＰＣで運用可能（条件有り）

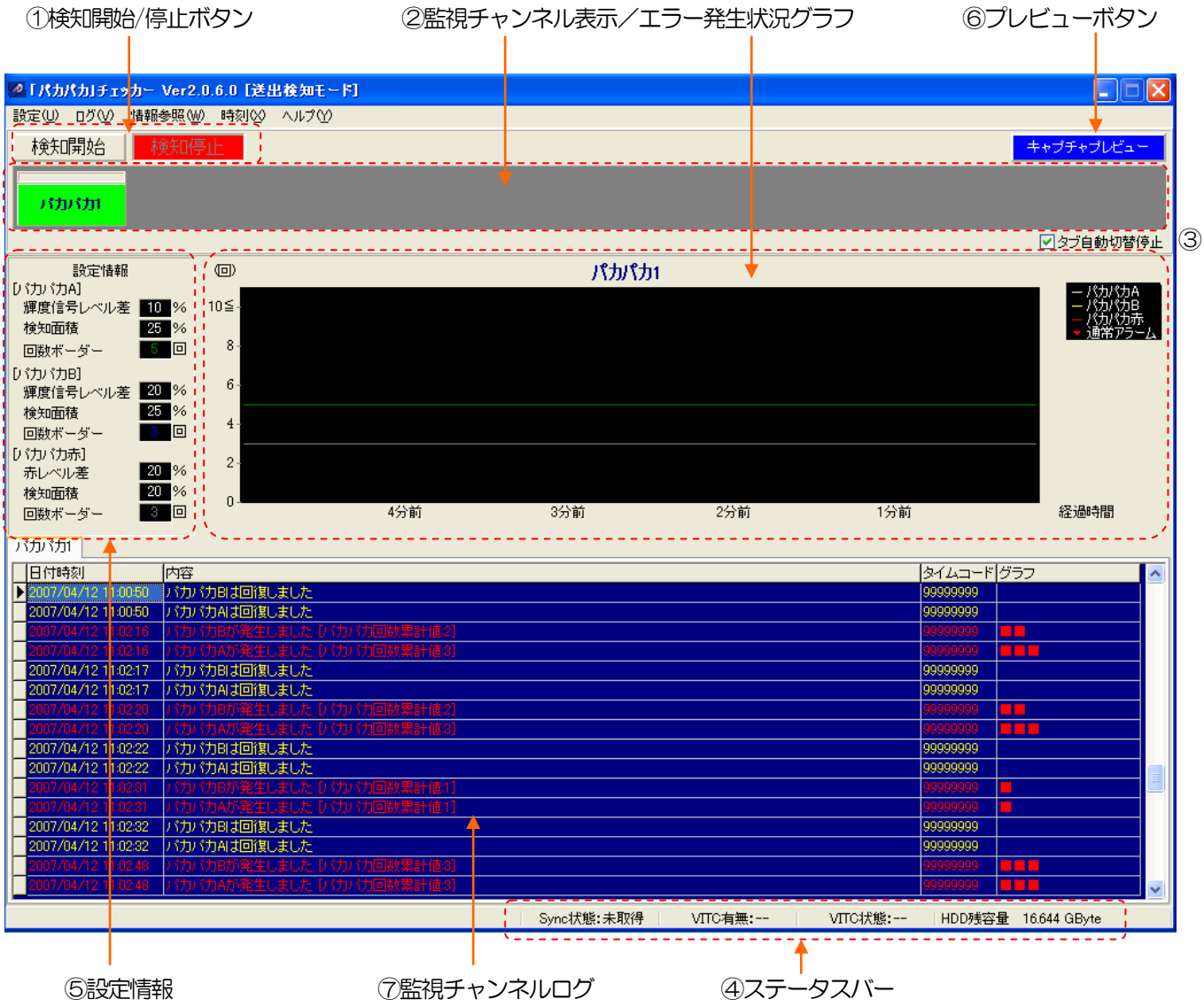
※VAD-300 複数台接続時はキャプチャ機能１台のみ実行可能（選択制）
※動作モードがバンクモード時、接続台数は１台固定（チャンネル１のみ有効となる）
※動作モードが送出検知モード時のみ最大１０台まで接続可能

2. 画面機能

「パカパカ」チェッカーソフトウェアの機能について、画面をベースに説明します。

2．1　メイン画面

ソフトウェアを起動した時に表示されます。



① 検知開始 をクリックする事により監視がスタートします。

検知停止 をクリックする事により監視を停止します。

② 監視チャンネル表示ボタンはエラーの発生状況をサマリ表示します。クリックする事で確認動作となり、フリッカ　を停止します。監視チャンネル表示ボタンをクリックする事により、連動して監視チャンネルログ及びエラー発生状況グラフが表示されます。

③ タブ自動切替停止チェックはチェックを入れる事によって、エラー発生時に自動的に該当チャンネルを表示する措置を停止します。チェックを入れていないときは、エラー発生時に自動的に該当チャンネルが表示されます。

④　ステータスバーにはSyncの状態、VITCの有無、VITCの状態、AVIフォルダを指定しているドライブの残容量を表示します。

⑤　設定情報
監視しきい値設定（P．８）で設定された情報が反映されています。数値をダブルクリックすることにより、監視しきい値設定画面（P．８）が開き、設定することができます。

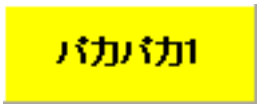
⑥　キャプチャプレビューボタンの機能
検知中／停止中にいずれの時にもキャプチャソース映像を確認する事ができます。

ボタンをクリックする事により、現在の映像が別ウィンドウに表示されます。
表示ウィンドウは表示開始から30秒後に自動的に消去されます。

⑦　ログの行部分をクリックして選択後Deleteキーを押すと、該当行のログと関連するAVIファイルを削除します。
（CSVに書き込んだログは削除されません。）

※1）チャンネルボタンの色変化について
チャンネルボタンはエラーの発生状況、確認の状況により変化します。
以下に状況別チャンネルボタンの一覧を示します。

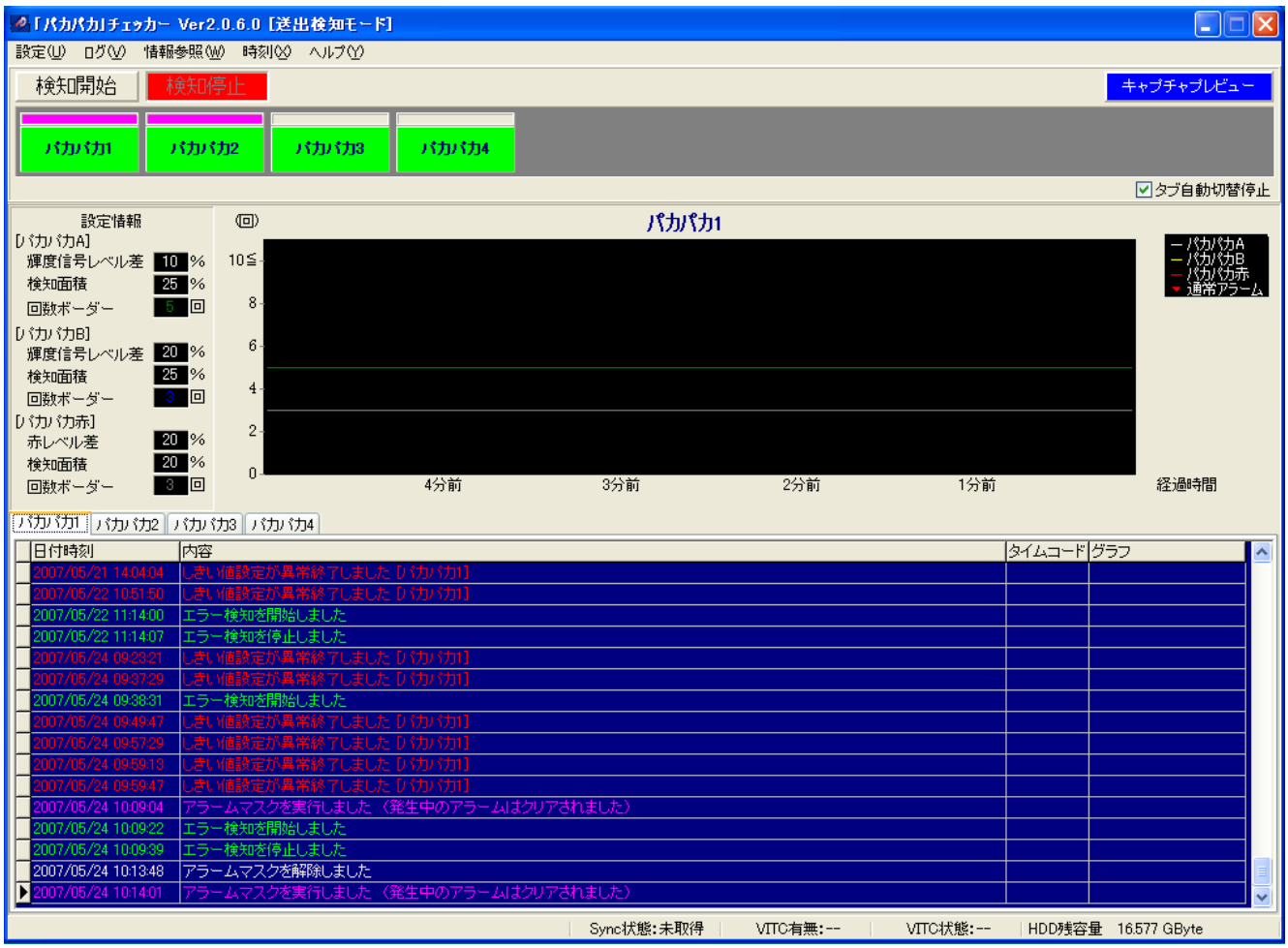
表2．１－１　状況別チャンネルボタン一覧

チャンネルボタン	動作	内容
	連続点灯	エラーが発生していない正常な状態です。
	フリッカー	エラーが発生し、未確認の状態です。 この状態の時に確認を行うと赤連続点灯に変化します。
	連続点灯	エラーが発生した後の確認済み状態です。
	フリッカー	エラーが発生し、確認を行う前にエラーが復帰した時の状態です。 この状態での確認実行は以下の条件で移行が異なります。 ・他エラーが残っていない時　→　緑連続点灯 ・他エラーが残っている時　　→　赤連続点灯

※2）ミュート動作について

エラー発生/回復の通知を任意で停止する事ができます。

実行方法は監視チャンネルボタンの上部四角形をダブルクリックする事で設定/解除となります。



上記例では「パカパカ１」、「パカパカ２」にミュートをかけたところです。

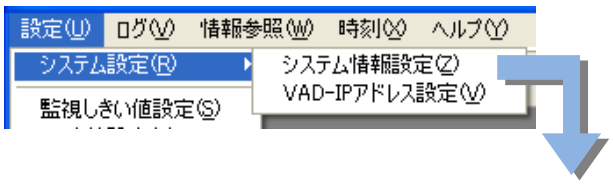
ミュートをかけたことにより、「パカパカ１」、「パカパカ２」ではエラーの発生/回復が通知されなくなります。

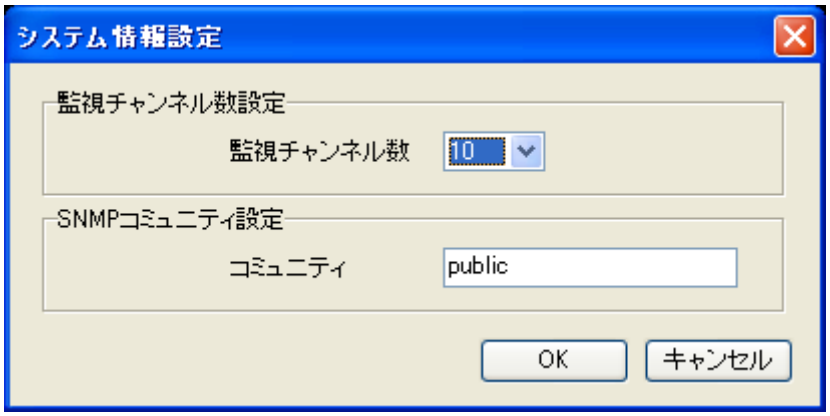
「パカパカ３」、「パカパカ４」についてはエラー通知が行われます。

ミュートの解除時はアラーム状態を一度クリアし、最新状態をVAD-300より取り込みます。

2．2　システム情報設定

監視を行うチャンネル数の設定とハードウェア本体との通信を行うためのコミュニティ名称設定を行います。





監視するチャンネルを変更した場合、メイン画面の表示は自動的に新設定のチャンネル表示に変わります。

SNMP コミュニティ設定は必要な時以外は変更しないでください。変更が必要な場合はハードウェアの設定も同時に変更してください。ハードウェアの設定と一致していないと通信が行えません。
デフォルトの設定は「public」です。

2．３　VAD－ＩＰアドレス設定

監視を行うチャンネルに対応したハードウェアのＩＰアドレス及び、メイン画面上に表示するチャンネル名称を設定します。

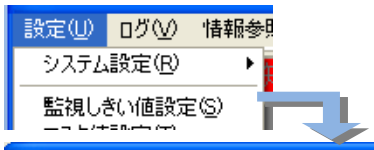
名称を変更する場合は変更したい名称欄をダブルクリックして編集状態にしてください。
ＩＰアドレスの変更時も同様の操作で編集が行えます。
ＩＰアドレスの入力方法は「．」を含んで「192.168.200.254」のように入力して下さい。

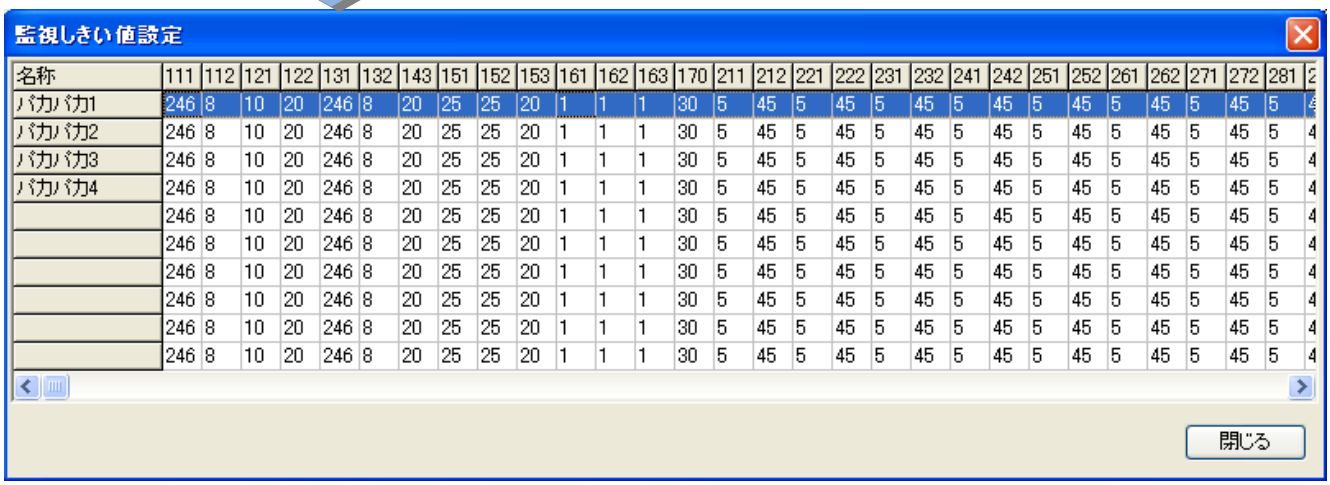
名称の変更について　･･･　この画面で名称を入力してもＩＰアドレスを入力しないと画面上には反映されません。（IP アドレスが存在しないチャンネルは監視対象としないため）

2．4　監視しきい値設定

ハードウェア本体に対し、エラー検知を行うための各種設定を行います。

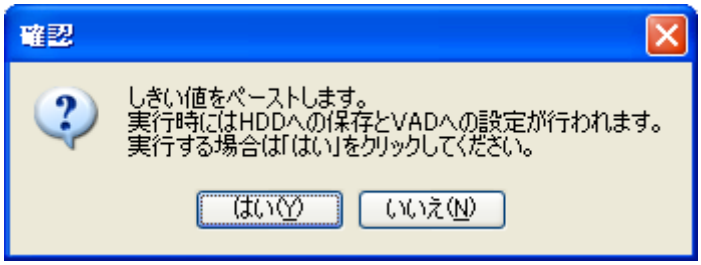
2．4．1　監視しきい値設定一覧画面



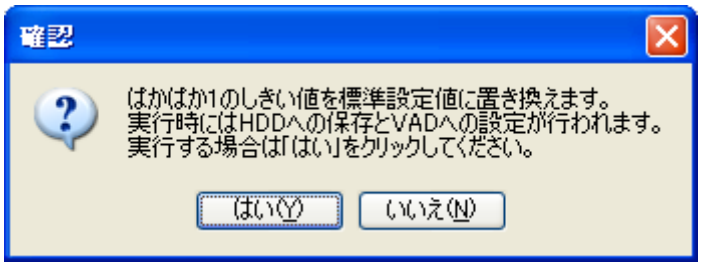


この画面上で設定を行いたい「行」をダブルクリックすると次ページに示す入力画面が表示されます。
なお、選択を行った後、右クリックする事によりポップアップメニューが表示されます。これにより設定値を一括でコピーする事が可能です。以下に実行方法を示します。

①コピー元の行を選択する
②右クリックで行コピーを選択する
③コピー先の行を選択する
④行ペーストを選択する
　行ペーストメニューを選択すると以下の確認ダイアログが表示されますので実行可否を選択してください。



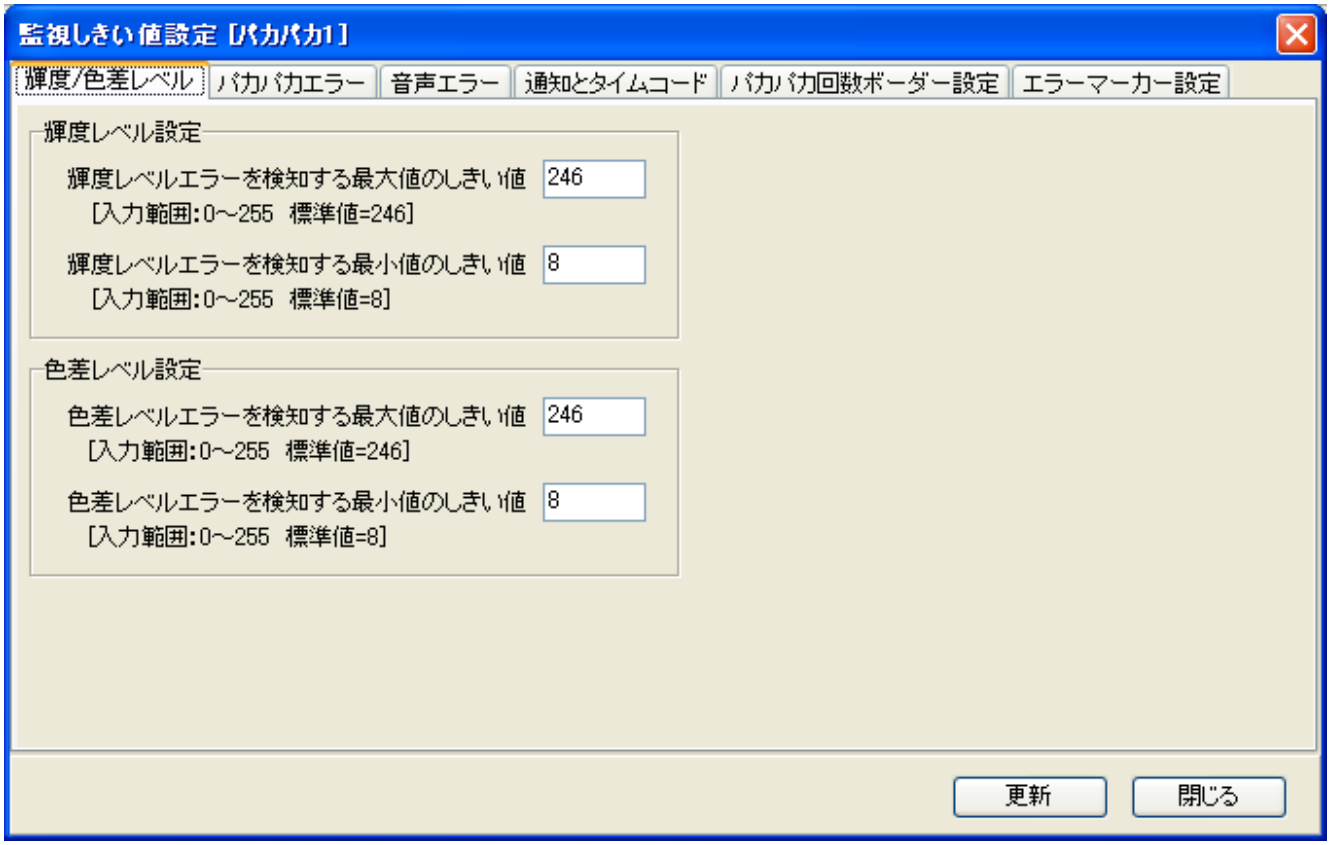
⑤右クリックによるポップアップメニューにはデフォルト設定に戻すメニューがあります。
　このメニューの機能は、ハードウェアの設定値を出荷時状態に戻すものです。以下に選択時の確認ダイアログを示します。



2．4．2　監視しきい値設定入力画面

監視しきい値設定一覧画面の行部分をダブルクリックするか、メイン画面の設定情報の数値部分をダブルクリックすると本画面が開きます。

（1）[輝度/色差レベルタブ]



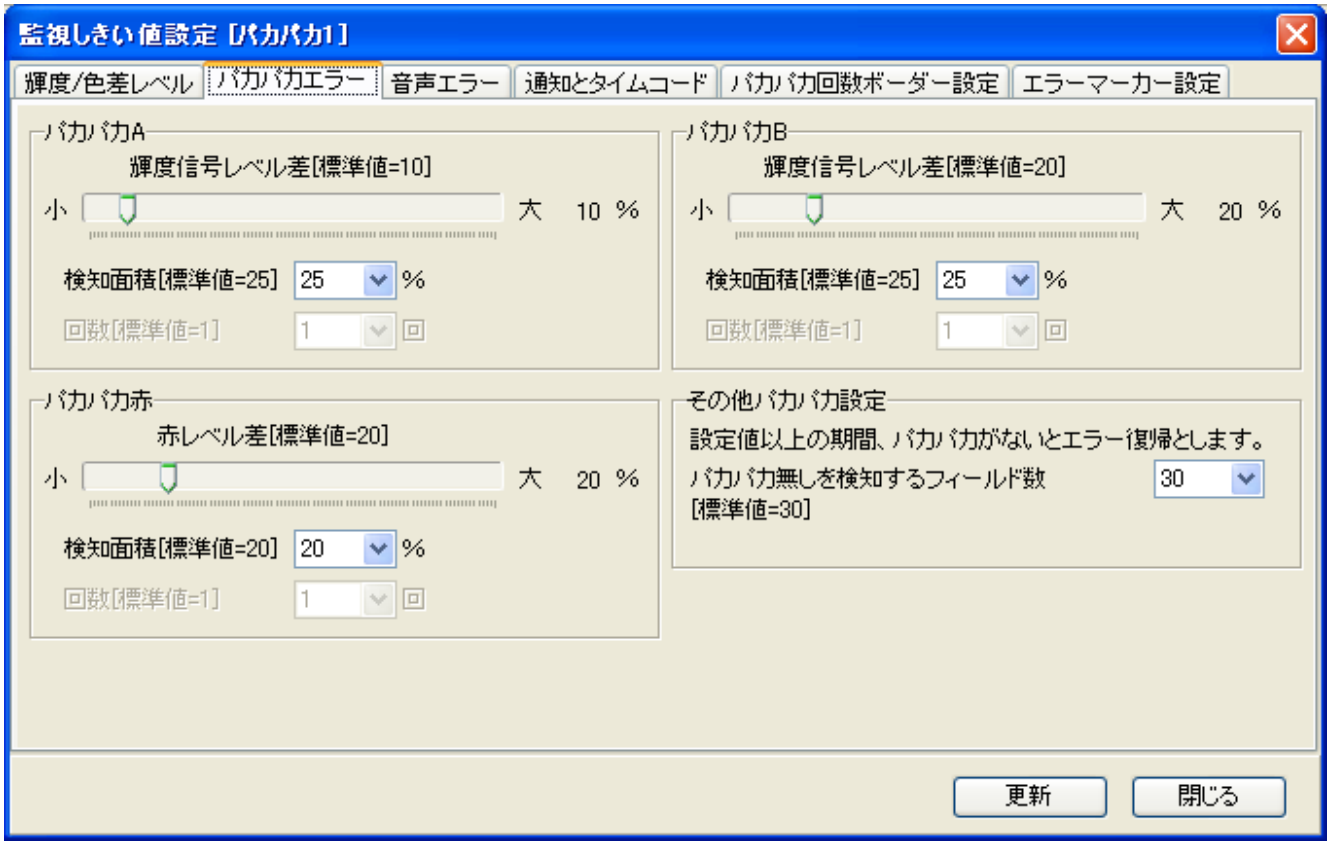
ハードウェア本体で検知する輝度/色差レベルのしきい値を設定します。

・輝度レベル設定
　①輝度レベルエラーを検知する最大値　･･･　この値を超えると輝度レベルエラーとなります。
　②輝度レベルエラーを検知する最小値　･･･　この値を下回ると輝度レベルエラーとなります。

・色差レベル設定
　①色差レベルエラーを検知する最大値　･･･　この値を超えると色差レベルエラーとなります。
　②色差レベルエラーを検知する最小値　･･･　この値を下回ると色差レベルエラーとなります。

更新ボタンをクリックする事によってハードウェアに設定されます。

⑵［パカパカエラータブ］



ハードウェア本体で検知するパカパカエラーのしきい値を設定します。

・パカパカA
　①輝度信号レベル差　・・・　元の輝度に対してここで設定する（%）を超えた時にパカパカAエラーとします。
　②検知面積　・・・　パカパカAエラーを検知する面積を全体に対する（%）で設定します。

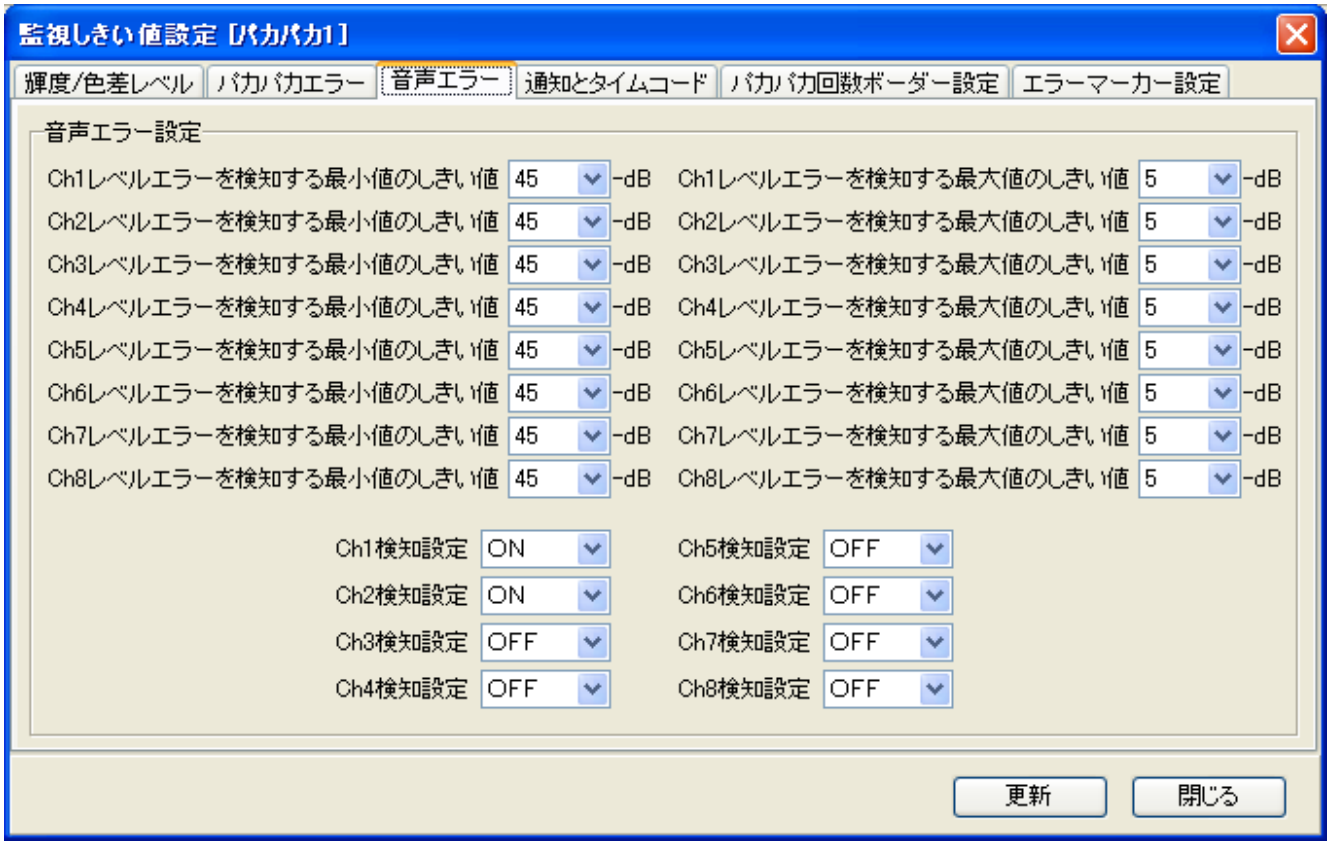
・パカパカB
　①輝度信号レベル差　・・・　元の輝度に対してここで設定する（%）を超えた時にパカパカＢエラーとします。
　②検知面積　・・・　パカパカBエラーを検知する面積を全体に対する（%）で設定します。

・パカパカ赤
　①赤レベル差　・・・　元の赤レベルに対してここで設定する（%）を超えた時にパカパカ赤エラーとします。
　②検知面積　・・・　パカパカ赤エラーを検知する面積を全体に対する（%）で設定します。

・その他のパカパカ設定　・・・　パカパカエラー回復とするフィールド数の設定
　ここで設定したフィールド数以上の期間、パカパカがなければ回復とする。

更新ボタンをクリックする事によってハードウェアに設定されます。

⑶［音声エラータブ］



・音声レベルエラー検知

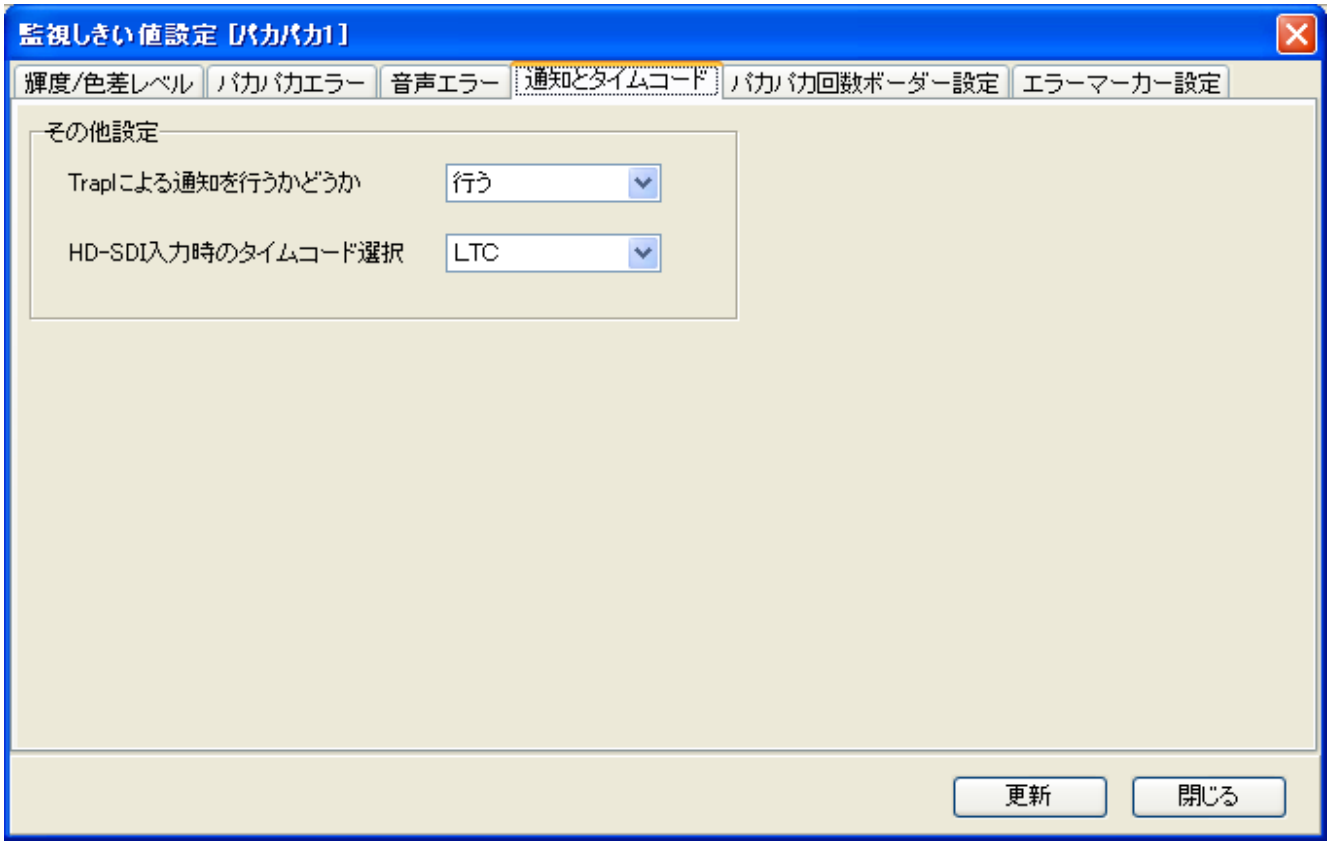
①音声レベルエラー検知最小値しきい値　･･･　ここで設定した値（-dB）を下回った時に音声レベルエラーとします。

②音声レベルエラー検知最大値しきい値　･･･　ここで設定した値（-dB）を上回った時に音声レベルエラーとします。

③音声検知設定　･･･　音声チャンネルの検知を行うかどうかを設定します。

更新ボタンをクリックする事によってハードウェアに設定されます。

⑷［通知とタイムコードタブ］



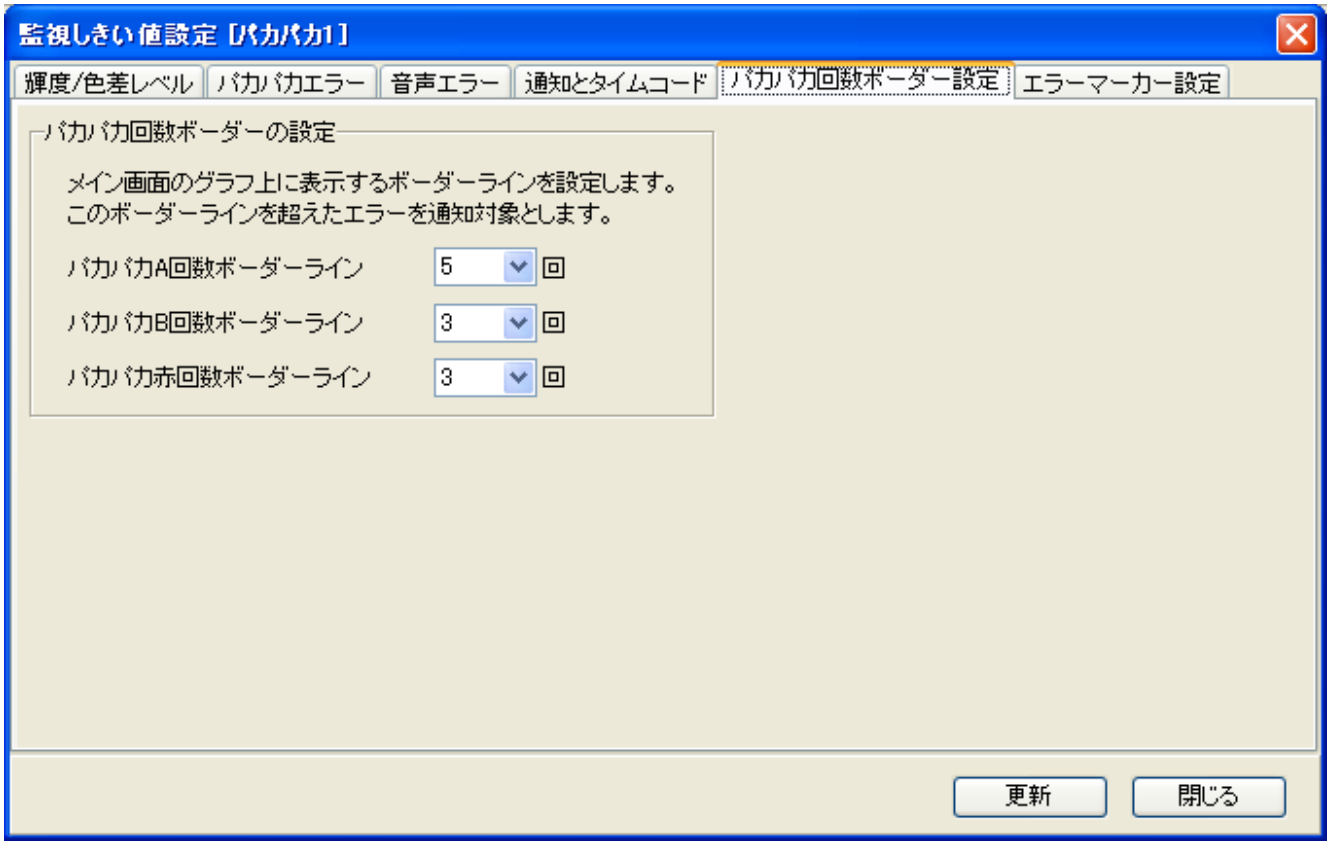
・その他の設定

①Trap による通知を行うかどうか　・・・　行わないとした場合、ハードウェア本体からの通知が一切行われなくなります。（監視が行えなくなります）

②HD-SDI 入力時のタイムコード選択　・・・　HD-SDI 入力時の使用タイムコードをＬＴＣまたはＶＩＴＣから選択します。

更新ボタンをクリックする事によってハードウェアに設定されます。

⑸［パカパカ回数ボーダー設定タブ］



・パカパカ回数ボーダーの設定

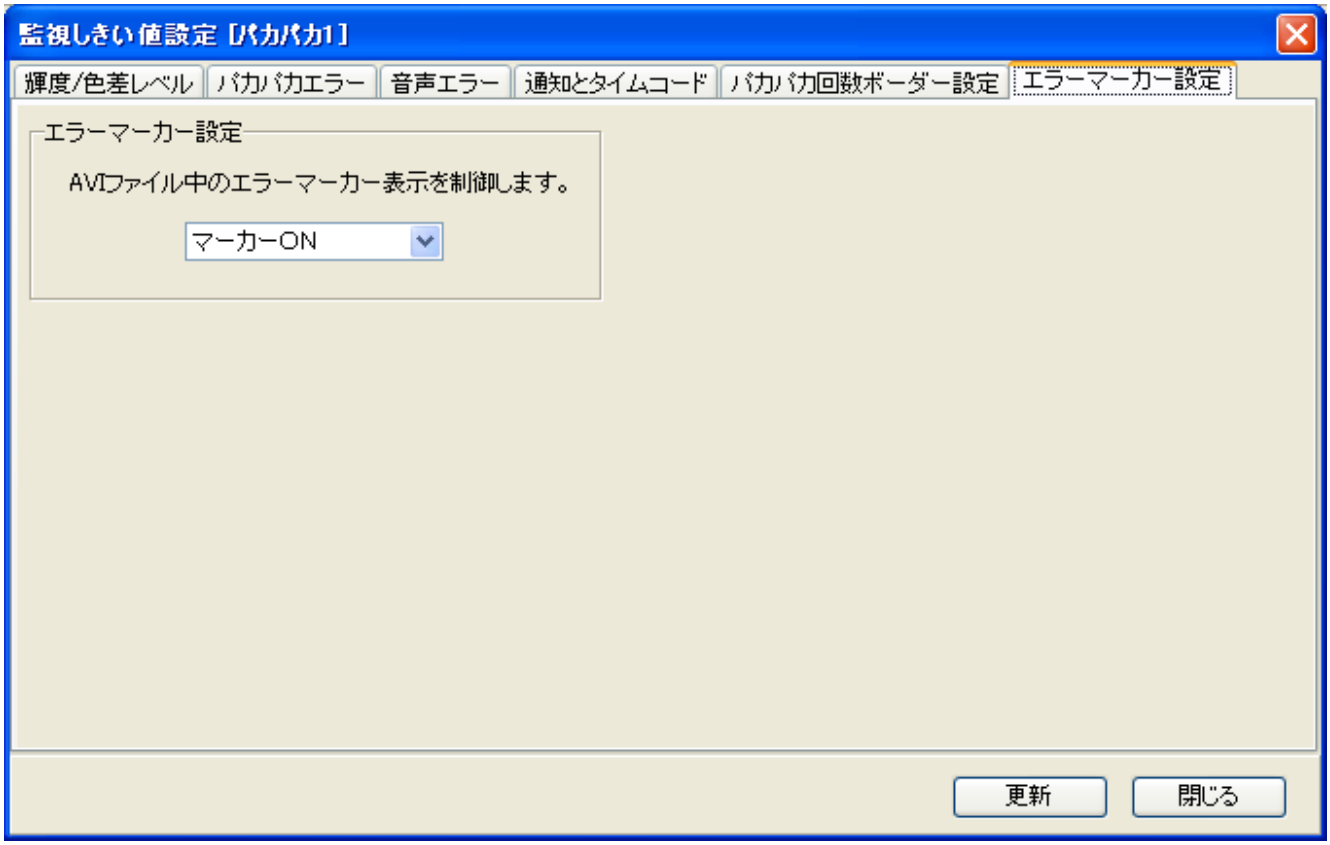
①パカパカA回数ボーダーライン設定　･･･　メイン画面のグラフ上に表示するボーダーの回数を設定します。
この設定を上回った時にログの表示、キャプチャの実行が行われます。
この設定回数以下のときはグラフ上に表示が行われるのみとなり、
ログの表示、キャプチャの実行は行われません。

②パカパカB回数ボーダーライン設定　･･･　メイン画面のグラフ上に表示するボーダーの回数を設定します。
この設定を上回った時にログの表示、キャプチャの実行が行われます。
この設定回数以下のときはグラフ上に表示が行われるのみとなり、
ログの表示、キャプチャの実行は行われません。

③パカパカ赤回数ボーダーライン設定　･･･　メイン画面のグラフ上に表示するボーダーの回数を設定します。
この設定を上回った時にログの表示、キャプチャの実行が行われます。
この設定回数以下のときはグラフ上に表示が行われるのみとなり、
ログの表示、キャプチャの実行は行われません。

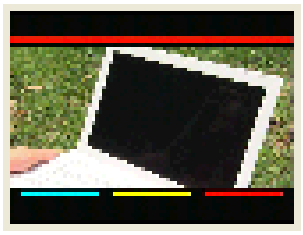
更新ボタンをクリックする事によって記憶、反映されます。

⑹［エラーマーカー設定タブ］



・エラーマーカー表示の設定

①エラーマーカー表示設定　･･･　キャプチャ映像上にエラー発生地点の表示を行います。
以下にエラーマーカー表示の例を示します。



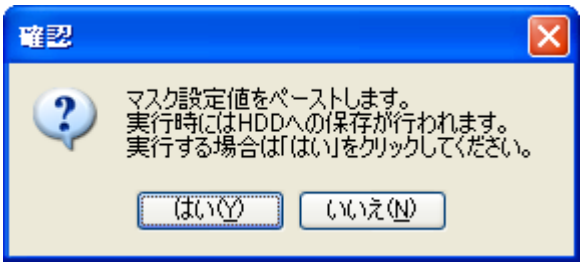
上部の赤ラインはエラー発生を示し、下部の３種類のラインはエラーの種類を現します。
左側からパカパカＡエラー、パカパカＢエラー、パカパカ赤エラーに対応します。

更新ボタンをクリックする事によって記憶、反映されます。

2．5　マスク値設定

通常エラーに対し、通知を抑制する時間を秒単位で設定します。
0を設定した場合は通知が行われません。また、VITC に関する項目は0で通知しない、0以外で通知するとなります。

①設定を行いたいチャンネルを左側の表内で選択、または、行を選択後、右クリックするとポップアップメニューが表示されます。メニュー内の行コピーを選択すると選択行の内容を一時記憶し、行ペーストが実行可能となります。行ペーストの実行方法はペーストしたい行を選択後、ポップアップメニューから行ペーストを実行します。行ペースト実行時には以下に示す確認ダイアログが表示され、実行をクリックでHDDへの保存が行われます。



②選択チャンネルの情報が右側「設定」枠内に表示されます。

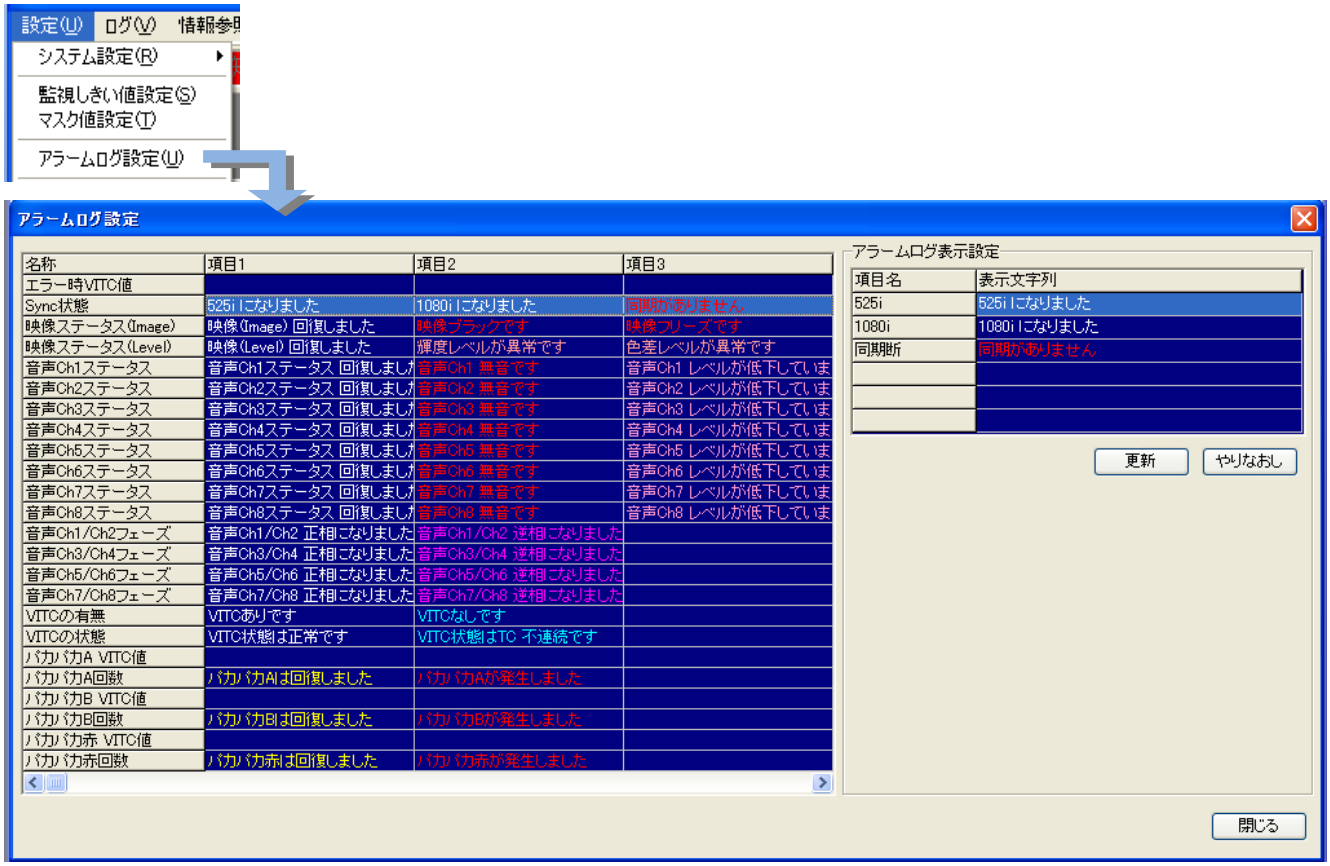
③「エラー種別」項目を選択すると「エラー詳細」項目が表示されます。

④変更したい「エラー詳細」項目をダブルクリックすると編集状態になりますので設定したい数値を入力して下さい。

※数値設定後、更新ボタンをクリックせずにエラー種別を変更した場合は更新が行われておりません。
設定終了後は必ず更新ボタンをクリックするよう注意してください。

2．6　アラームログ設定

ログ表示に使用する文字列及び色を設定します。



①左側表内をクリックしてエラー種別を選択します。

②右側「アラームログ表示設定」枠内に現在設定されている文字列が表示されます。

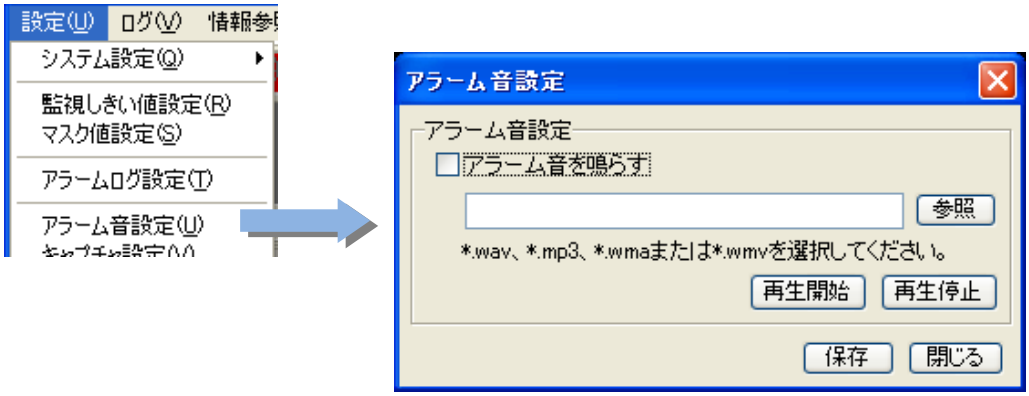
③右側「アラームログ表示設定」の表示文字列欄をダブルクリックすると編集状態となりますので、設定したい文字列を入力して下さい。

④ログ表示の色を変更したい場合は変更したい項目をまずクリックし、右クリックするとポップアップメニューが表示されます。メニューから（文字色変更）を選択してください。

⑤設定したい文字色をパレットから選択し、設定ボタンをクリックして下さい。
設定ボタンは確定の意味合いです。この更新を反映する場合はアラームログ画面の更新ボタンをクリックしてください。更新ボタンをクリックせずに別のエラー名称を選択した場合は変更されておりませんのでご注意願います。やりなおしボタンは更新ボタンをクリックした後は無効となります。
更新ボタンをクリックする事によって設定が記憶、反映されます。

2．7　アラーム音設定

ぱかぱかエラー発生時にアラーム音を鳴らす事ができます。
必要のないときにはチェックを外すことにより、機能を解除する事ができます。
音声ファイルはｗａｖファイル、MP３ファイル、WNAまたはWMVファイルが使用できます。



・アラーム音設定
①アラーム音を鳴らすチェック　･･･　チェックを付けることによりアラーム音鳴動状態となります。
チェックを外した場合、アラーム音は鳴りません。

②音声ファイルの選択　･･･　「参照」ボタンをクリックします。
ファイル選択ダイアログが表示されますので音声ファイルを指定して下さい。

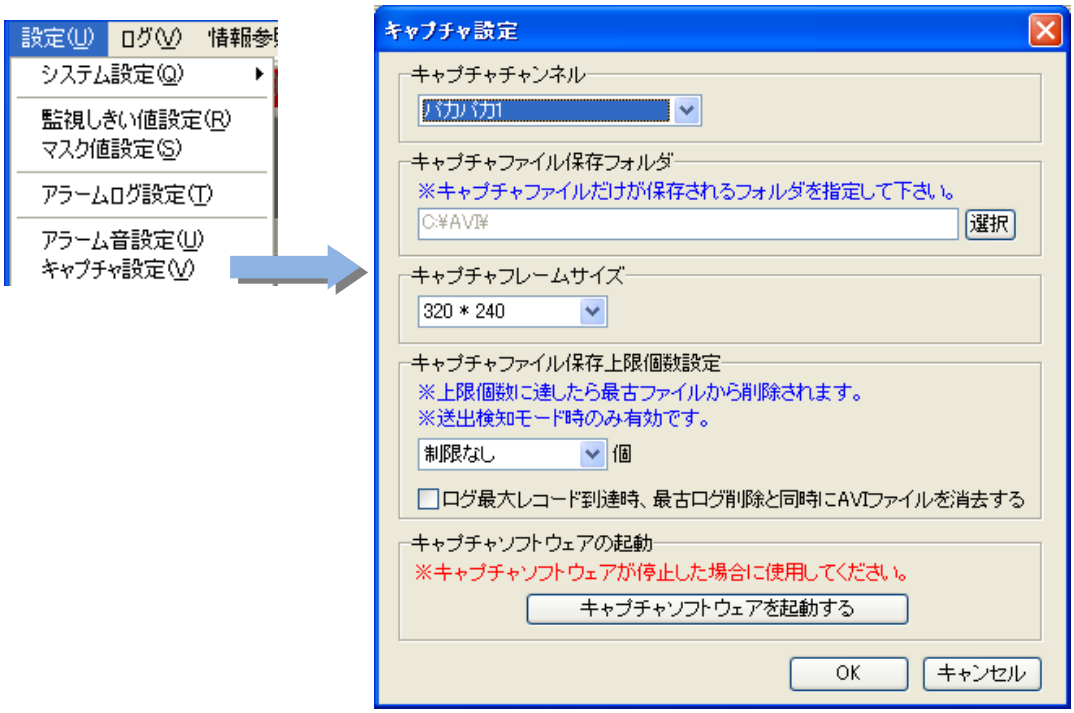
・アラーム音の再生
「再生開始」ボタンをクリックしてください。

・アラーム音の再生停止
「再生停止」ボタンをクリックしてください。

設定が終了したら保存ボタンをクリックして下さい。

2．8　映像キャプチャ設定

映像キャプチャの設定を行います。この設定のメニューは検知停止中のみ選択できます。



・キャプチャチャンネル

映像キャプチャを行いたいチャンネルを設定します。
キャプチャを行えるチャンネルは１チャンネルのみです。複数のチャンネルは同時にキャプチャを行えません。

・キャプチャファイル保存フォルダ

キャプチャした AVI ファイルを保存するフォルダを指定します。
デフォルトフォルダは「C:¥AVI¥」です。プログラム起動時にこのフォルダが存在しなかった時は自動的に作成します。
ここで設定したフォルダ情報はキャプチャソフトウェアと共有されます。

・キャプチャフレームサイズ

160*120、320*240 の２種類の中から選択します。
ここで設定したフレームサイズ情報はキャプチャソフトウェアと共有されます。

・キャプチャファイル保存上限個数設定

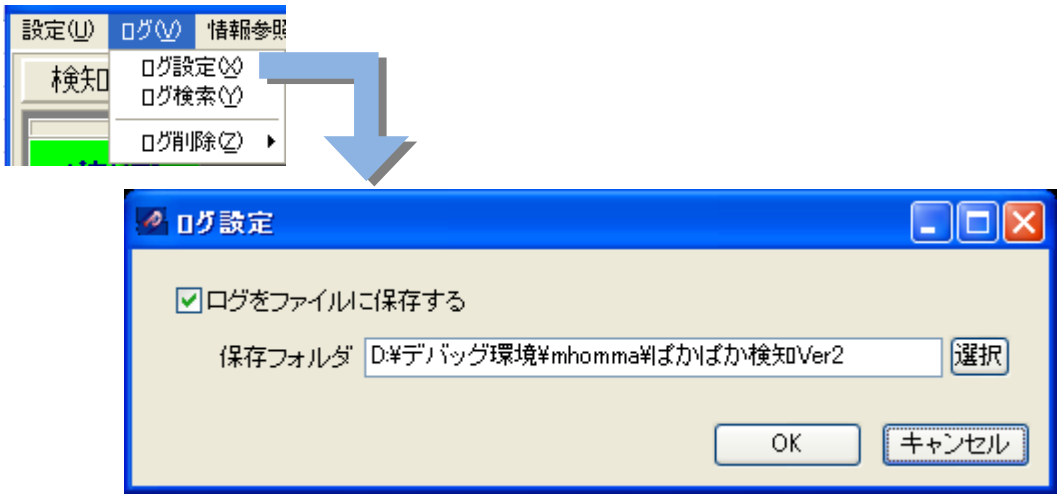
キャプチャファイルの保存上限の個数を設定します。設定単位は 500 ファイル単位で最大 10000 ファイルまで設定できます。上限に達した場合は新ファイル追加時に最古ファイルを自動削除します。
個数制限を行なわない時は[制限なし]を選択してください。
この設定は送出検知モード時で動作している時のみ有効で、バンク検知モードで動作している時は無視されます。
「ログ最大レコード到達時、・・・」にチェックを付けると、１チャンネルのログ件数が３万件を超え最古ログを削除する時に、関連する AVI ファイルも削除されます。チェックを外した場合、最古ログ削除時に関連する AVI ファイルは削除されません。

・キャプチャソフトウェアの起動
　キャプチャソフトウェアを起動します。キャプチャソフトウェアを任意に停止してしまった時に実行してください。

設定の更新があった時は OK ボタンをクリックして変更を記憶、反映してください。
（キャプチャソフトウェアの起動に関しては OK またはキャンセル、どちらでも問題ありません）
OK ボタンのクリックによって、キャプチャソフトウェアへも通知が行われ、変更が反映されます。

2．9　ログ設定

CSV ログ保存機能に関する設定を行います。



・ログ設定

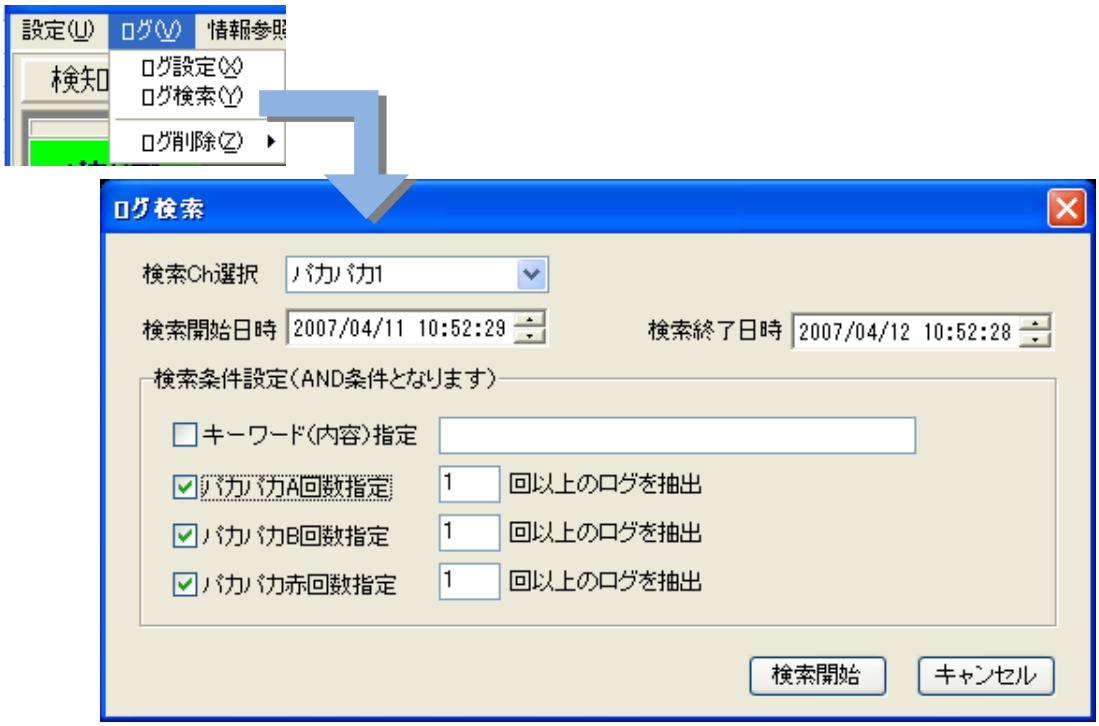
①ログをファイルに保存するチェック　･･･　発生ログを全て CSV ファイルに保存します。
通常はチェックを付けた状態で運用を行ってください。

②保存フォルダ　･･･　CSV ファイルを保存するフォルダを指定します。
デフォルトはプログラムのインストールフォルダが設定されています。

設定の更新があった時は OK ボタンをクリックして変更を記憶、反映してください。

2．１０　ログ検索

指定した条件でログを検索します。



・ログ検索

①検索 Ch 選択　　･･･　検索を行う Ch を指定します。（必須）

②検索開始/終了日時　　･･･　検索期間の設定を行います。（必須）

以降の条件はオプションとなります。先頭のチェックを付けることで有効となります。

③キーワード（内容）指定　･･･　ログの内容欄の文字列を部分検索します。

④パカパカA回数指定　　･･･　パカパカAの回数を指定します。

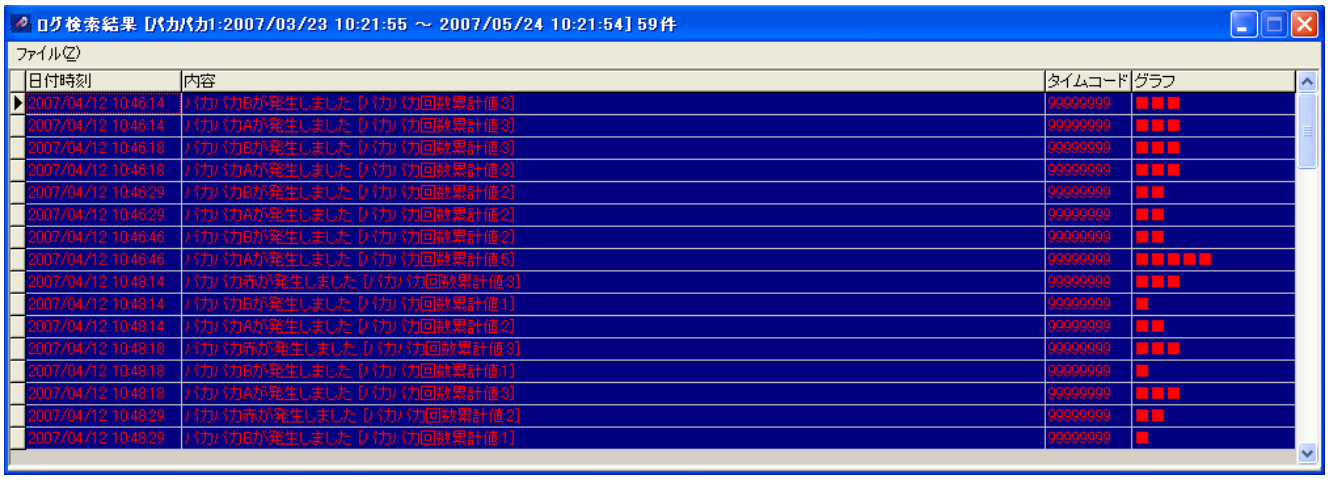
⑤パカパカB回数指定　　･･･　パカパカBの回数を指定します。

⑥パカパカ赤回数指定　　･･･　パカパカ赤の回数を指定します。

上記オプションは①、②に対して全て AND 条件となります。

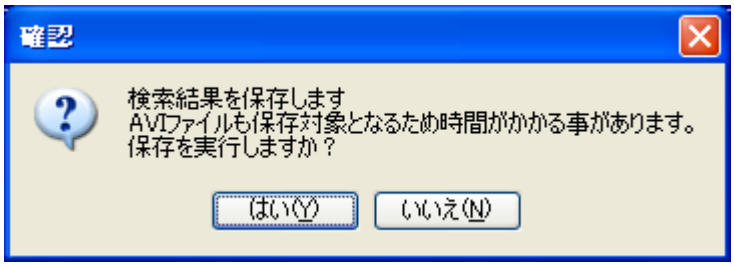
指定した条件で検索された結果は次ページで示す画面により表示されます。

ログ検索結果画面：



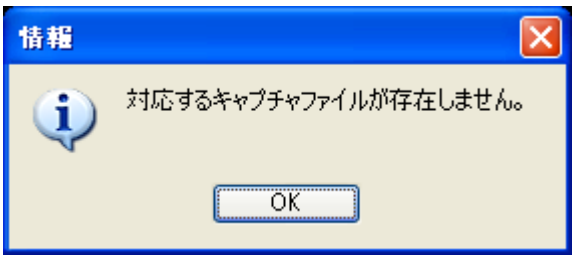
・ファイルメニュー

①保存　　･･･　検索された結果をファイル（CSV）に保存します。この時、フォルダ指定が可能です。
保存時、解析用のファイルが生成され、同時に指定したフォルダに保存されます。
実行時は保存時の注意ダイアログが表示されます（以下にイメージを示します）
保存機能実行後のファイル取り扱いについては補足説明を参照してください。



②印刷　　･･･　検索された結果を印刷します。

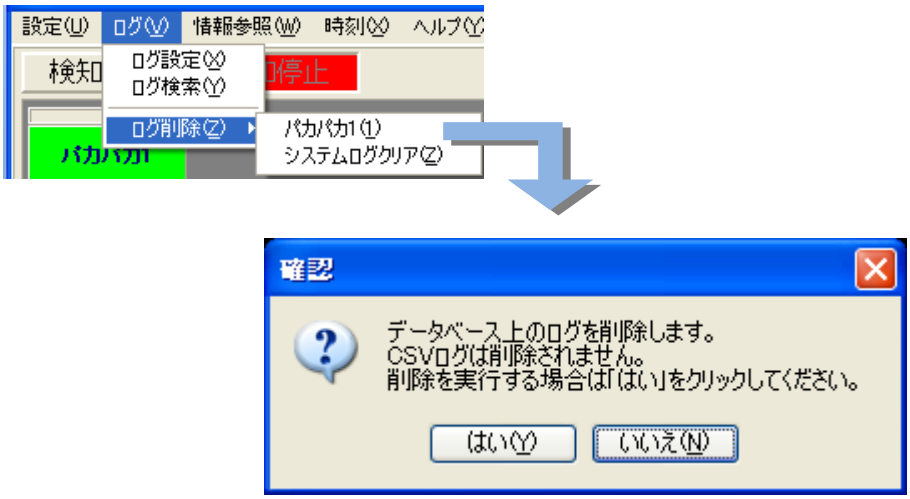
キャプチャファイル再生　･･･　ログの行部分をダブルクリックする事によりキャプチャされた AVI ファイルを再生する事ができます。（キャプチャファイル存在時のみ）
再生イメージはキャプチャ関連画面を参照してください。
再生対象の AVI ファイルが存在しない時はファイルを開けない旨、ダイアログが表示されます（以下に画面イメージを示します）



ログ検索結果画面は ESC キーで消去する事が可能です。

2．１１　ログ削除

⑴選択されたチャンネルのログ（データベース上のみ）の削除

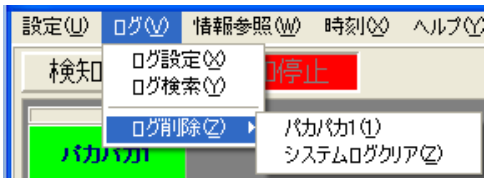


削除されるのはデータベース上のログのみで CSV に書き込んだログ及び削除該当期間の AVI ファイルは削除されません。

ログは各 Ch に於いてそれぞれ最大3万件保持可能で、3万件を超えた場合は最古ログを消去し、最新データを追加していきます。

⑵システムログ（データベース上のみ）の削除

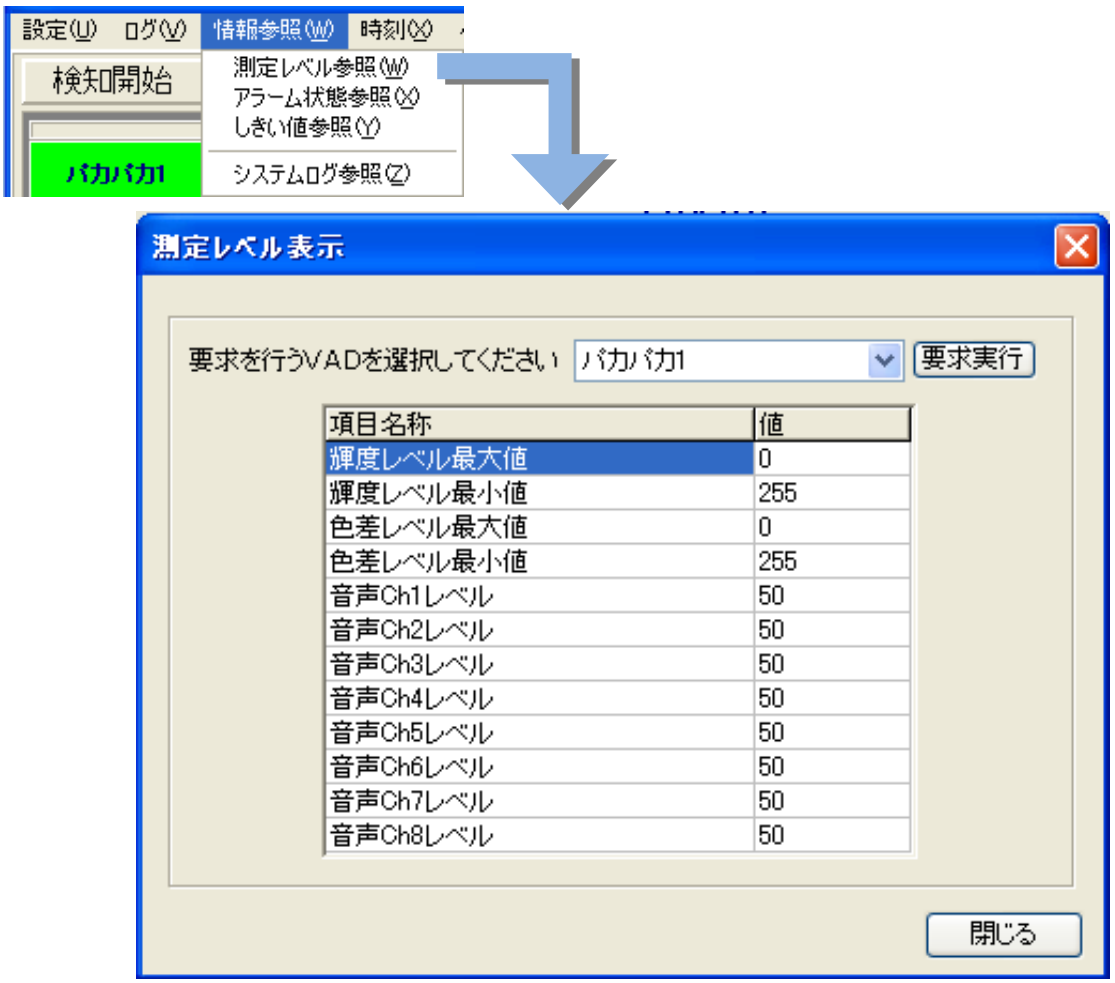
下記画面の「システムログ」クリアをクリックすると、全チャンネルのシステムログが削除されます。



削除されるのはデータベース上のログのみで CSV に書き込んだログは削除されません。

2．１２　測定レベル参照

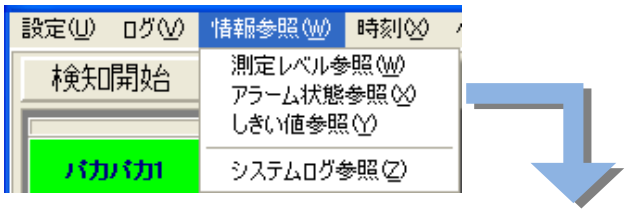
ハードウェア上の測定レベルを参照します。

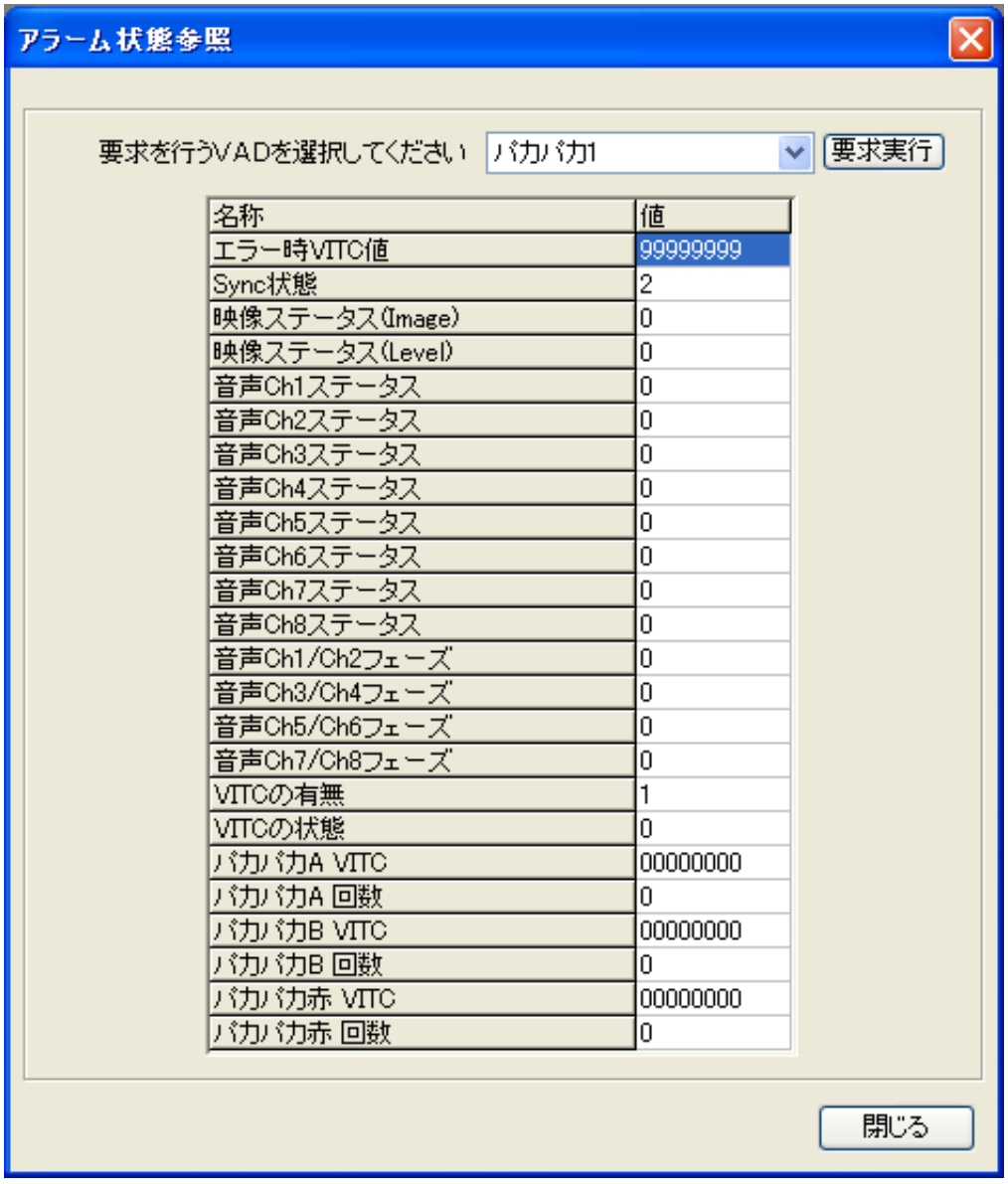


・要求を行いたいチャンネルを選択し、要求実行ボタンをクリックして下さい。
通信が正常に行われている場合はハードウェアからの応答が表示されます。通信異常の時は何も表示されません。

2．１３　アラーム状態参照

ハードウェア上のアラーム状態を参照します。





名称	値
エラー時VITC値	99999999
Sync状態	2
映像ステータス(Image)	0
映像ステータス(Level)	0
音声Ch1ステータス	0
音声Ch2ステータス	0
音声Ch3ステータス	0
音声Ch4ステータス	0
音声Ch5ステータス	0
音声Ch6ステータス	0
音声Ch7ステータス	0
音声Ch8ステータス	0
音声Ch1/Ch2フェーズ	0
音声Ch3/Ch4フェーズ	0
音声Ch5/Ch6フェーズ	0
音声Ch7/Ch8フェーズ	0
VITCの有無	1
VITCの状態	0
バカバカA VITC	00000000
バカバカA 回数	0
バカバカB VITC	00000000
バカバカB 回数	0
バカバカ赤 VITC	00000000
バカバカ赤 回数	0

・要求を行いたいチャンネルを選択し、要求実行ボタンをクリックして下さい。
通信が正常に行われている場合はハードウェアからの応答が表示されます。通信異常の時は何も表示されません。

2．１４　しきい値状態参照

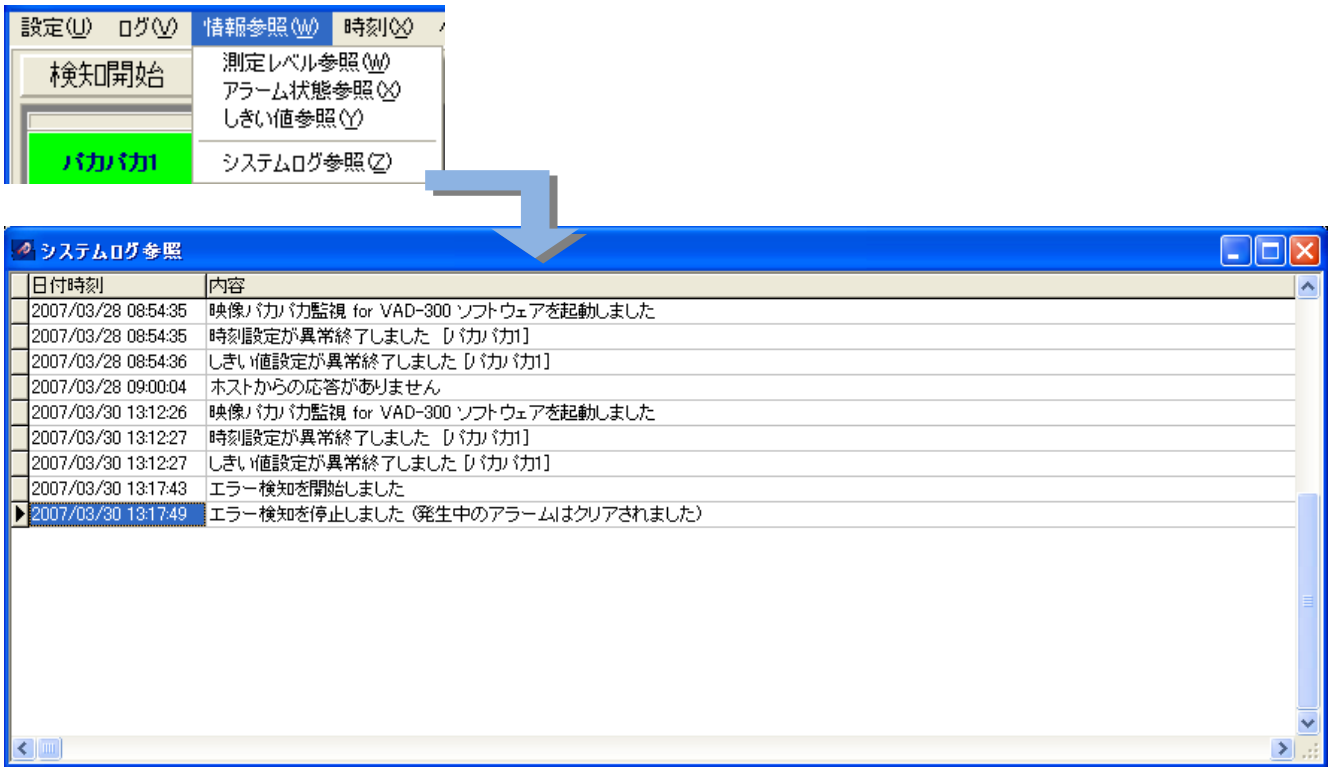
ハードウェア上のしきい値状態を参照します。

項目名称	値
輝度レベルエラー最大しきい値	246
輝度レベルエラー最小値しきい値	8
バカバカA輝度信号レベル差(%)	10
バカバカB輝度信号レベル差(%)	20
色差輝度レベルエラー最大しきい値	246
色差レベルエラー最小しきい値	8
バカバカ赤信号レベル差(%)	20
バカバカA検知面積(%)	25
バカバカB検知面積(%)	25
バカバカ赤検知面積(%)	20
バカバカA回数	1
バカバカB回数	1
バカバカ赤回数	1
バカバカ無し検知のフィールド数	30
音声Ch1レベルエラー最大しきい値	5
音声Ch1レベルエラー最小しきい値	45
音声Ch2レベルエラー最大しきい値	5
音声Ch2レベルエラー最小しきい値	45
音声Ch3レベルエラー最大しきい値	5
音声Ch3レベルエラー最小しきい値	45
音声Ch4レベルエラー最大しきい値	5
音声Ch4レベルエラー最小しきい値	45
音声Ch5レベルエラー最大しきい値	5
音声Ch5レベルエラー最小しきい値	45
音声Ch6レベルエラー最大しきい値	5
音声Ch6レベルエラー最大しきい値	45
音声Ch7レベルエラー最大しきい値	5
音声Ch7レベルエラー最小しきい値	45
音声Ch8レベルエラー最大しきい値	5
音声Ch8レベルエラー最小しきい値	45
音声Ch1エラー検知状態	0
音声Ch2エラー検知状態	0
音声Ch3エラー検知状態	1
音声Ch4エラー検知状態	1
音声Ch5エラー検知状態	1
音声Ch6エラー検知状態	1
音声Ch7エラー検知状態	1
音声Ch8エラー検知状態	1
Traplによる通知	1
HD-SDI入力時のTC選択	0
エラーマーカ表示選択	1

・要求を行いたいチャンネルを選択し、要求実行ボタンをクリックして下さい。
通信が正常に行われている場合はハードウェアからの応答が表示されます。通信異常の時は何も表示されません。

2．１５　システムログ参照

ソフトウェア上で発生したシステムイベントログを参照します。
キャプチャソフトウェアからのメッセージも記録されます。



日付時刻	内容
2007/03/28 08:54:35	映像バカバカ監視 for VAD-300 ソフトウェアを起動しました
2007/03/28 08:54:35	時刻設定が異常終了しました［バカバカ1］
2007/03/28 08:54:36	しきい値設定が異常終了しました［バカバカ1］
2007/03/28 09:00:04	ホストからの応答がありません
2007/03/30 13:12:26	映像バカバカ監視 for VAD-300 ソフトウェアを起動しました
2007/03/30 13:12:27	時刻設定が異常終了しました［バカバカ1］
2007/03/30 13:12:27	しきい値設定が異常終了しました［バカバカ1］
2007/03/30 13:17:43	エラー検知を開始しました
2007/03/30 13:17:49	エラー検知を停止しました（発生中のアラームはクリアされました）

2．１６　VAD時刻参照

ハードウェア時刻の設定や確認を行えます。

・VAD時刻設定確認

①VAD指定　　･･･　設定/確認を行いたいチャンネルを指定して下さい。

②VAD時刻確認　　･･･　確認ボタンをクリックすると指定したチャンネルのVADとPC の時刻情報が表示されます。

③VAD時刻設定　　･･･　ハードウェア本体の時刻を設定できます。
設定には２種類あり、任意の時刻と現在のＰＣ時刻を設定する事ができます。

2．１７　VADバージョン

ハードウェア本体のバージョン情報を参照します。

・VADバージョン参照

①参照を行いたいチャンネルを選択し、確認ボタンをクリックします。

②バージョン欄にハードウェアのバージョン情報が表示されます。

通信異常の時は何も表示されません。

・ソフトウェアバージョン参照

ソフトウェアのバージョン情報が表示されます。

消去は画面をクリックして下さい。

2．１８　映像キャプチャ関連画面

キャプチャ再生はメイン画面のグラフ欄に[■」があるログ行をダブルクリックする事により表示され、同時に再生が行われます。

再生ファイルが存在しない場合はその旨ダイアログが表示されます。

・キャプチャファイルを再生する時に表示される画面

①遅く　　・・・　再生時のスピードを遅くする
②早く　　・・・　再生時のスピードを早くする
③通常　　・・・　再生時のスピードを通常にする
④サムネイル表示　・・・　再生中のAVIファイルをフレーム毎に表示する

次ページに表示例を示します。

また、情報として、フレームサイズ、再生時間を表示します。

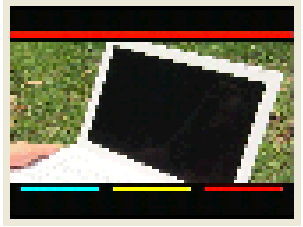
サムネイル表示例

・ 表示　　･･･ 画面を閉じるメニューがあります。

・ 印刷　　･･･ 同時刻に発生したログ内容と共にAVIファイルをフレーム毎に表示したサムネイルイメージを印刷します。
　画像イメージをクリックすると水色の枠で囲まれた選択状態となり、その状態で印刷を行った場合は選択された画像イメージのみが印刷されます。何も選択しなかった場合は全ての画像イメージが印刷されます。次ページにフレームを選択した状態の画面例を示します。

・ 表示切替　･･･ 表示サイズの切り替えが可能です。
※表示サイズによって以下の解像度より低い画面は、表示をはみ出します。
[小]：SVGA(800×600 ドット)
[中]：XGA(1024×768 ドット)
[大]：SXGA(1280×1024 ドット)

・エラーマーカー　･･･ パカパカエラーを検知したフレームにはマーカーが記されます。



上部の赤ラインはエラー発生を示し、下部3種類のラインはエラーの種類を現します。
青ライン　：パカパカＡエラー発生を表します。
黄色ライン：パカパカＢエラー発生を表します。
赤ライン　：パカパカ赤エラー発生を表します。

画像イメージを選択した例
以下の状態で印刷を行うと、水色ラインで囲まれた画像のみ印刷を行います。
選択を解除する場合は選択した画像を再度クリックします。

※サムネイル表示画面はESC キーで消去する事が可能です。

2．１９　パトライト関連画面

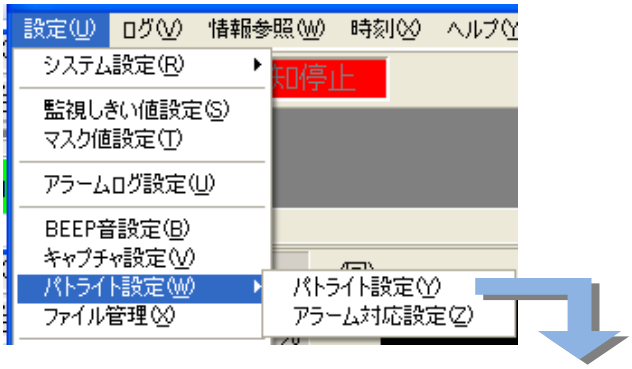
エラー発生時にパトライトを連動させることが可能です。ここでいうエラー発生時とはメイン画面上のログに表示されるタイミングのことを指します。

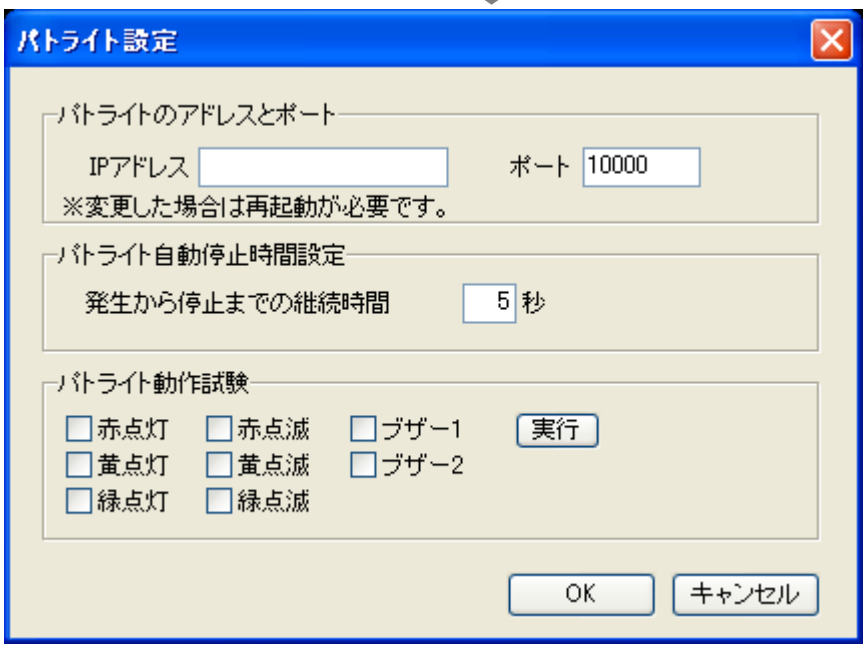
従って、通常エラーであればマスク値経過後、パカパカエラーであればフラッシュ回数がしきい値を超えた場合の事をいいます。

本システムで使用可能なパトライトはパトライト社製の「PHN-3FB」及び「NHE-3FB」です。
上記以外のパトライトについては動作いたしませんので型番をご確認の上、ご使用願います。

パトライトの使用設定

パトライトを使用するためにはIPアドレス、ポート番号を設定する必要があります。
メニューより、「設定」→「パトライト設定」→「パトライト設定」と選択します。
以下の画面が表示されますので、パトライトのIPアドレスとポート、及びエラー発生時からの自動停止時間を設定します。



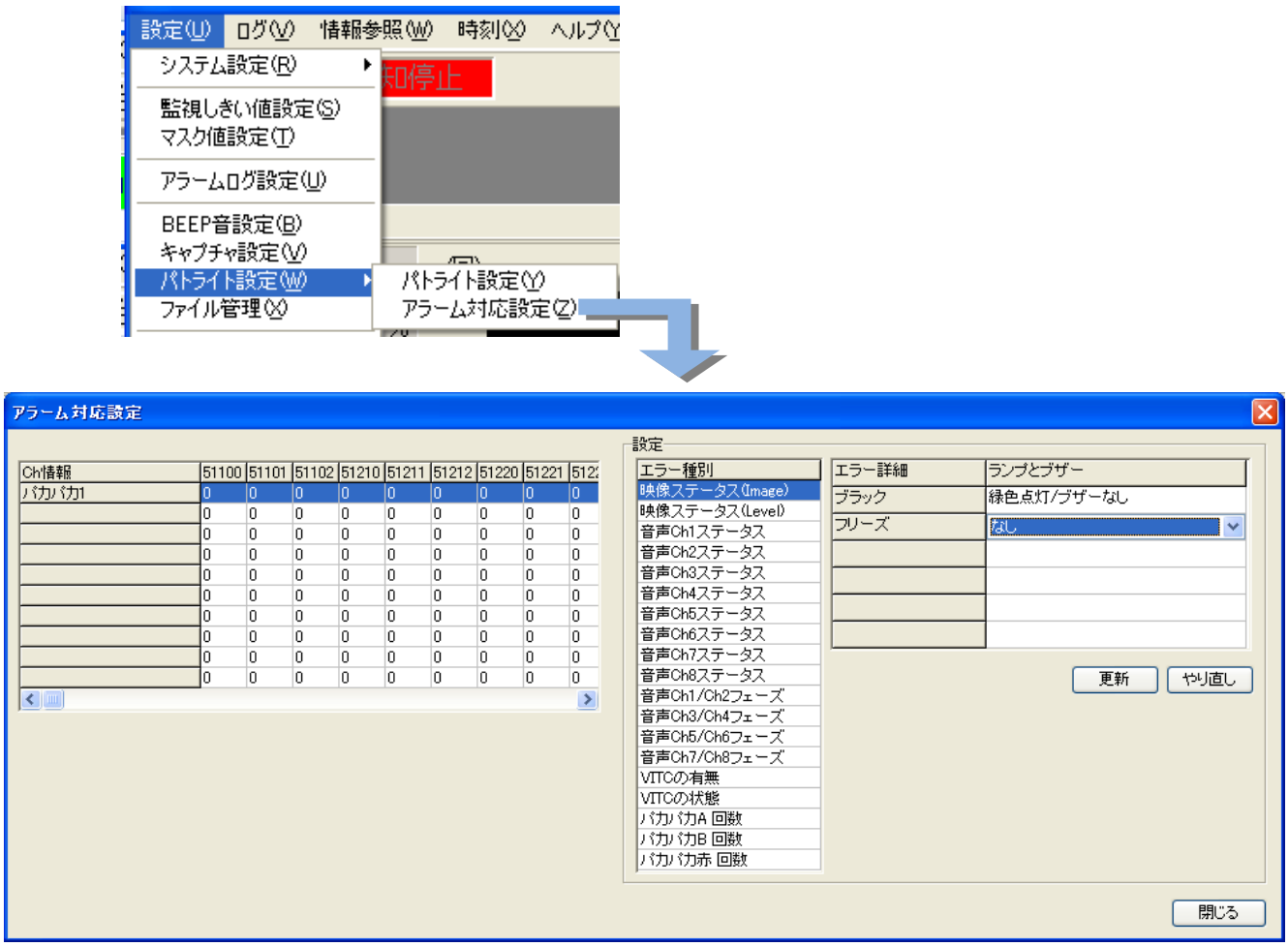


また、この画面ではパトライトの手動動作試験が行えます。

選択したステータス状態を点灯/点滅させることができます。表示のクリアは自動停止時間で設定した時間後に行われます。またはパトライト本体についているクリアボタンを押下する事によってもクリアが行えます。

パトライトのアラーム対応設定

個別のエラーについて、パトライトの動作を対応させることが可能です。



設定画面の操作は次の通りです。

a)設定したいチャンネルを左側のチャンネル設定で選択する。
（左側欄を直接編集する事はできません）

b)「詳細」欄のエラー種別を選択します。選択すると右側のランプとブザー欄に現在設定中の状態が表示されます。

c)ランプとブザー欄をクリックすると表示欄が選択コンボボックスに変わりますので選択肢の中から選択を行ってください。

d)選択が終わったら必ず更新ボタンをクリックして下さい。更新ボタンをクリックせずに他のエラー種別を選択すると変更は保存されずにキャンセルされます。

e)全ての設定が終了したら閉じるボタンをクリックして設定画面を消去します。

左側欄選択時に右クリックするとポップアップメニューが表示され、チャンネル単位でのコピー/ペーストが行えます。

コピーは、コピーしたいチャンネルを選択し、右クリック→コピー。

ペーストは貼り付けしたい行を選択し、右クリック→ペースト。

ペースト時はペーストと同時にHDDに保存されますので更新ボタンをクリックする必要はありません。ペーストを行ったチャンネルの設定を変更する場合は上記a)～e)の手順で行ってください。

次ページにエラーの種類とパトライトの動作種類を記述します。

エラーの種類については以下の通りです。

・[映像]ブラック
・[映像]フリーズ
・[映像]輝度レベルエラー
・[映像]色差レベルエラー
・[映像]輝度＆色差レベルエラー
・[音声]無音　･･･　1Ch～8Ch
・[音声]レベル低　･･･　1Ch～8Ch
・[音声]レベル高　･･･　1Ch～8Ch
・[音声]音声エンベデッドなし　･･･　1Ch～8Ch
・[音声] 1kHz　･･･　1Ch～2Ch
・[音声]逆相
・VITC の有無
・VITC の状態
・パカパカＡの発生
・パカパカＢの発生
・パカパカ赤の発生

パトライトの動作種類は以下の通りです。上記エラー１種類につき、以下の選択肢の中から１種類を選択する事ができます。

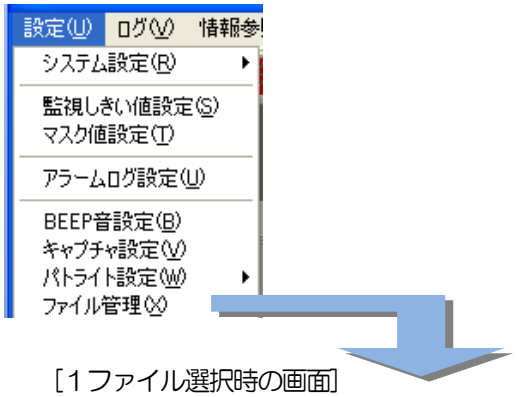
・なし
・緑色点灯/ブザーなし
・黄色点灯/ブザーなし
・赤色点灯/ブザーなし
・緑色点滅/ブザーなし
・黄色点滅/ブザーなし
・赤色点滅/ブザーなし
・緑色点灯/ブザー1
・黄色点灯/ブザー1
・赤色点灯/ブザー1
・緑色点滅/ブザー1
・黄色点滅/ブザー1
・赤色点滅/ブザー1
・緑色点灯/ブザー2
・黄色点灯/ブザー2
・赤色点灯/ブザー2
・緑色点滅/ブザー2
・黄色点滅/ブザー2
・赤色点滅/ブザー2

※ブザー1 は「ピー・ピー」、ブザー2 は「ピピピ」音となります。

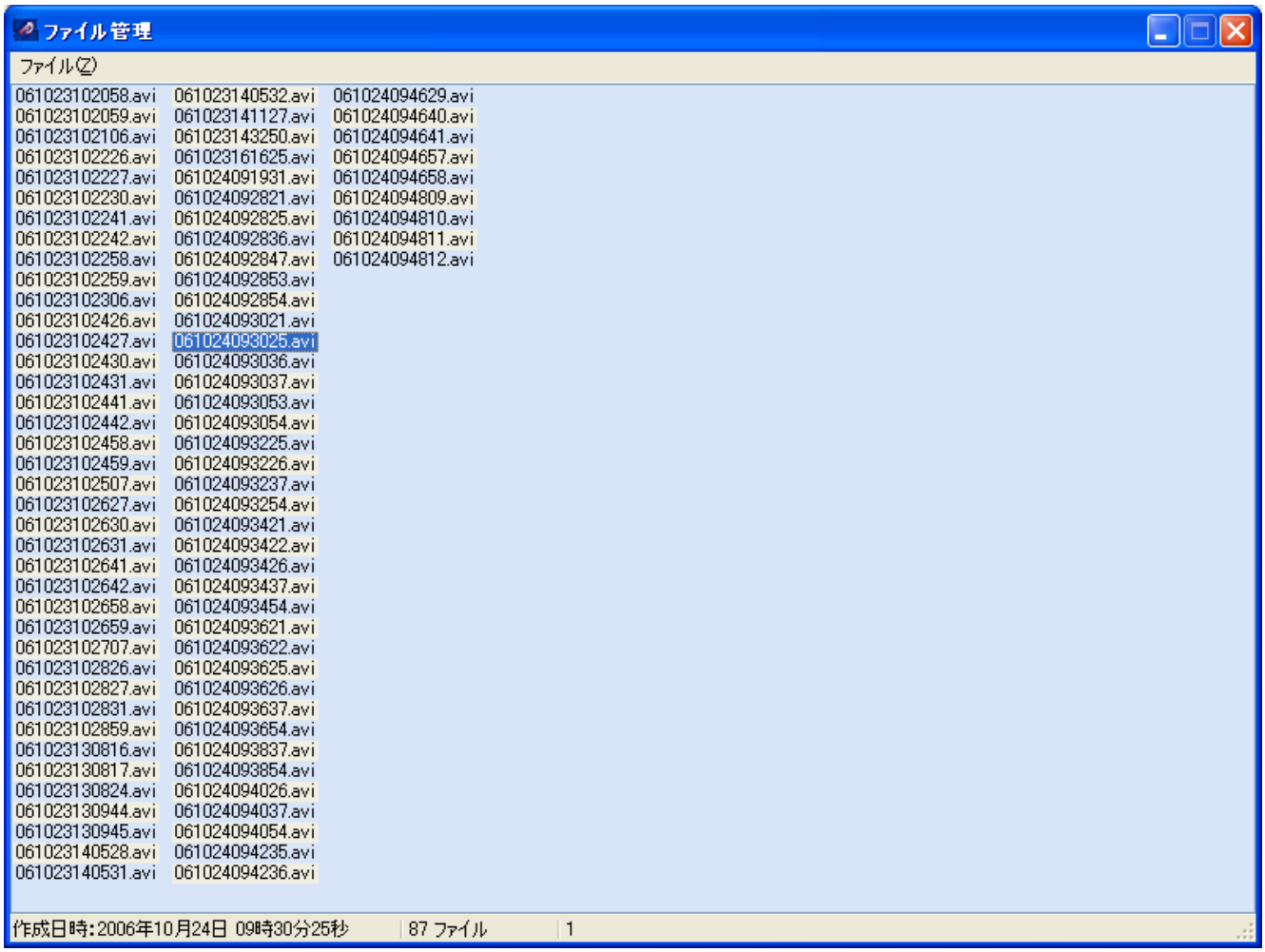
2．２０　ファイル管理画面

キャプチャしたファイルの削除管理を行います。この機能は検知を停止した状態でのみ選択できます。

削除は１ファイル毎または複数ファイル同時ともに行えますが、複数ファイルを選択した場合は内容確認が行えません。



［１ファイル選択時の画面］

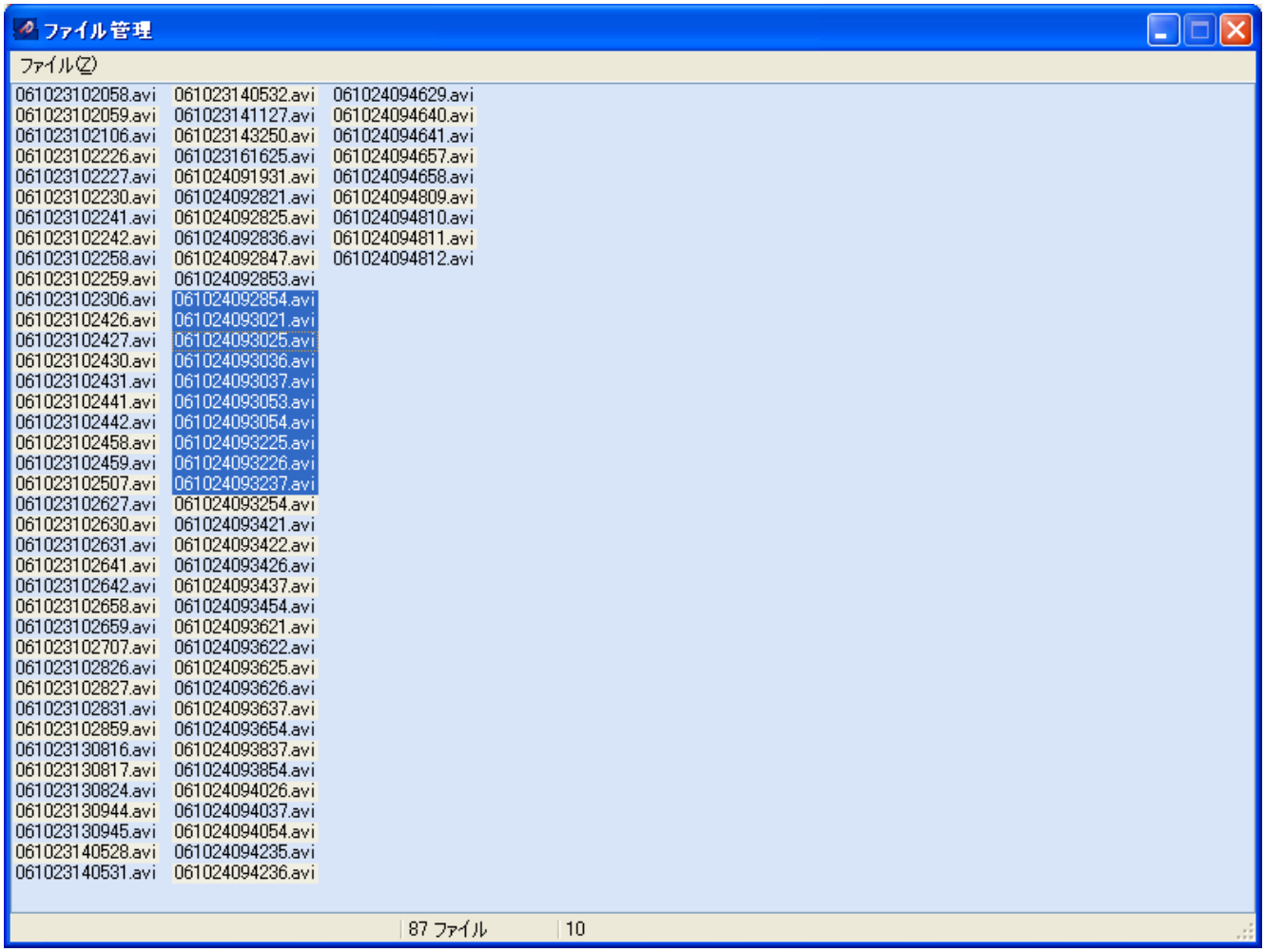


選択したファイルの作成日付、AVI フォルダ内に存在するファイル数、選択したファイル数がステータスバーに表示されます。

ファイルの選択は１個または複数ファイルが選択できます。複数ファイルの選択方法はドラッグによる選択、コントロールキーによる選択、シフトキーによる選択のどれかで行えます。

次ページに複数ファイルを選択したときの画面イメージを示します。

［複数ファイル選択時の画面］

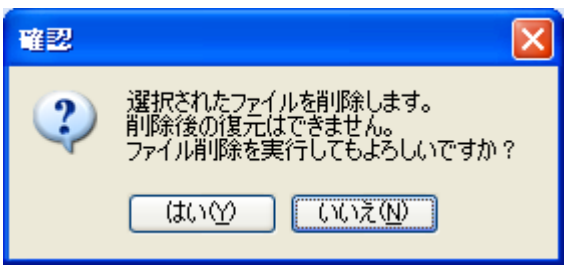


　複数ファイル選択時、作成日付は表示されません。AVI フォルダ内に存在するファイル数、選択ファイル数のみ表示されます。

　選択を行った状態で右クリックするとポップアップメニューが表示されます。
メニューは以下の内容があります。（メニューバーには削除メニューのみ存在します）

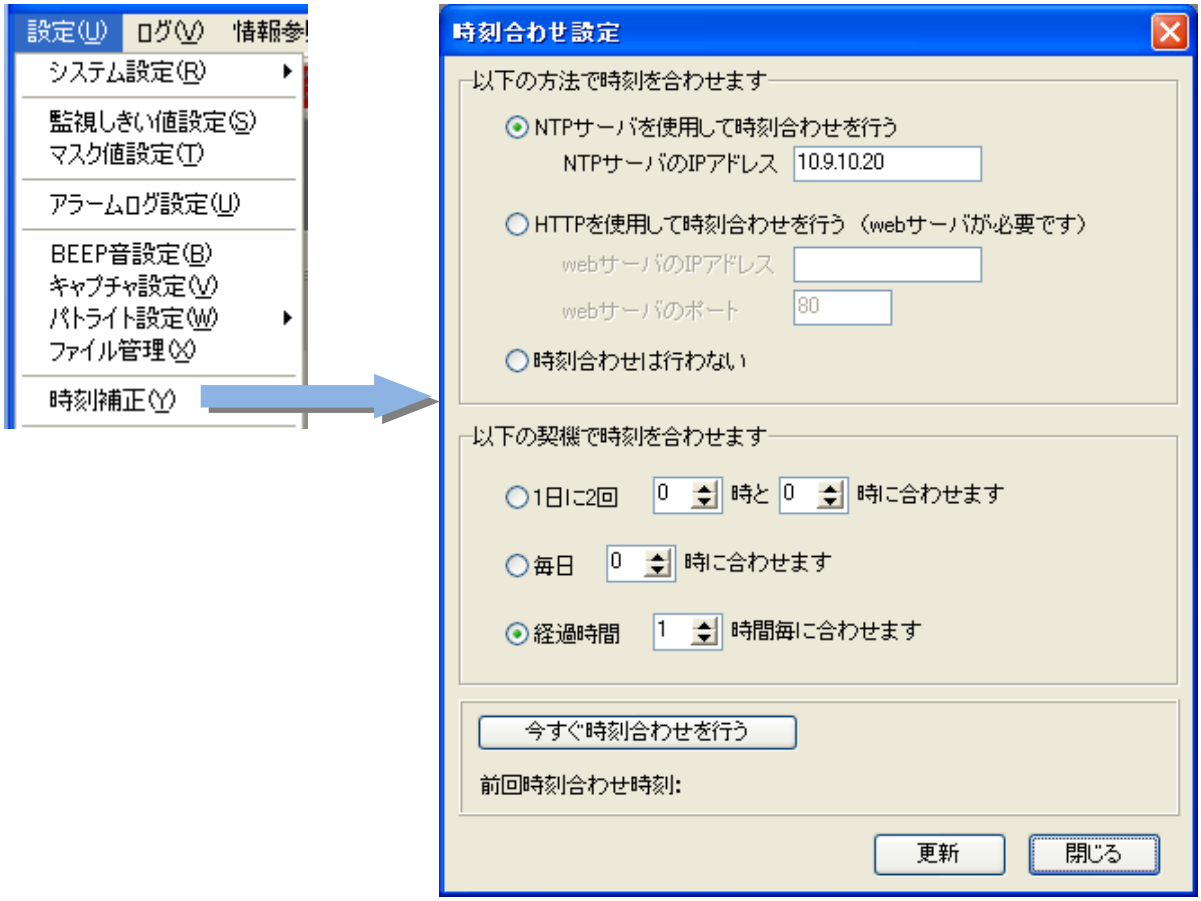
①内容確認　・・・　選択したファイルの内容をスケールダウンしたフレーム毎のイメージで確認できます。
ただし、複数ファイル選択している場合は選択できません。

②削除　　・・・　選択したファイルを削除します。複数選択時も実行可能です。実行時には削除確認画面（以下にイメージを示します）が表示されますので可否を選択してください。
削除後の復元はできませんので注意してください。



2．２１　時刻補正画面

ソフトウェアが動作しているPC の時刻補正を行う設定です。
以下の画面により設定します。



時刻補正の方法として２種類の中から選択します。時刻補正を行わない場合は「時刻合わせは行わない」を選択してください。

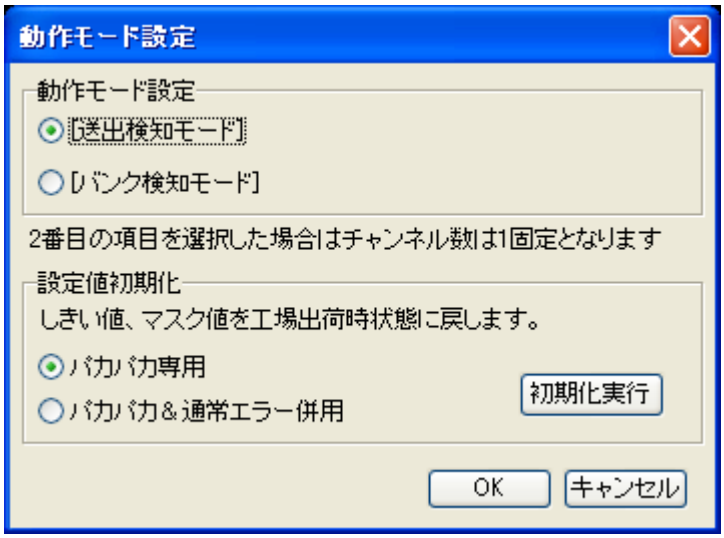
次に時刻合わせの契機についてですが、３種類の中から選択します。

今すぐ時刻合わせを行うボタンは選択された方法で時刻合わせを即時実行します。
設定後の時刻取得動作確認に使用します。
時刻合わせを行った後は「前回時刻合わせ時刻」の後に時刻合わせを行った年月日時分秒が表示されます。

設定を行った後は更新ボタンをクリックして保存してください。

2．22　動作モード設定画面

メイン画面のログ表示エリアをクリックした後、「CTRL＋ALT＋F９」キーを押下すると表示できます。
この設定では運用ソフトの動作を設定できます。
モードの違いはCSVファイルへの保存方法、検知動作開始時の作業名称の入力のみです。



動作モード設定

①送出検知モード
検知開始時に作業名称の入力は不要です。CSVファイルはログ設定で指定したフォルダ配下に「［送出検知モード］」フォルダを自動作成しその配下に　年、月単位で作成されます。

②バンク検知モード
検知開始時に作業名称の入力を促されます（以下にイメージを示します）
CSVファイルはログ設定で指定されたフォルダ配下に「［バンク検知モード］」フォルダを自動作成し、その配下に作業名称毎に作成されます。
また、ログ内容の先頭に作業名称が付加されますので、ログ検索時に作業名称で検索が行えます。
このモードを選択した場合は内部的に有効チャンネルが左側１チャンネルのみの固定となります。

※　６．検知作業の手順（Ｐ．５０）　にて作業手順を説明します。

設定値初期化

監視しきい値、マスク値を工場出荷時の状態に初期化します。
設定を実行する場合は初期化実行ボタンをクリックして下さい。終了後はキャンセルボタンをクリックし、画面を消去してください。

①パカパカ専用　･･･　パカパカエラーのみを検知する状態に初期化します。

②パカパカ＆通常エラー併用　･･･　パカパカエラーと通常エラーを検知する状態に初期化します。

3．映像キャプチャ　ソフトウェア

3．1　概要

本ソフトウェアはエラー発生時刻を元に、パカパカエラー発生時の映像をキャプチャするソフトウェアです。

映像ソースはUSBデバイスより常時供給され、これをフレーム毎にメモリ上でバッファリングを行っています。キャプチャした映像はAVIファイルとして保存します。

ファイル名称は運用管理ソフトウェアからトリガとして受信し、保存先フォルダは管理運用ソフトウェアの設定ファイル(Fldetect.ini)を参照します。

また、ＡＶＩファイルのフレームレートについても160*120、320*240の２種類から選択する事が可能です。

フレームレートの選択は管理運用ソフトウェアからの設定で随時行えます。

※キャプチャ開始時間の「前2秒」はトリガを受信する時までに１秒前後の誤差があるため、誤差を許容する範囲で前2秒としています。

3．2　推奨動作環境

推奨動作環境を以下の表3．2に示します。

表3．２　推奨動作環境

インタフェース	キャプチャデバイスとのインタフェース　ＵＳＢ２．０
ＯＳ	Windows　XP　SP2
ＣＰＵ	Pentium4　1.6GHz以上
ＲＡＭ	1GByte以上
ＨＤＤ	回転速度7200rpm以上
ディスプレイ	XGA(1024*768)以上
内部I/F	管理運用ソフトウェアとのインタフェース　ローカルUDPを使用

3．3操作説明

以下に、アプリケーションの操作について説明をします。

3．3．１　アプリケーションの起動

運用ソフトウェアを起動すると、同時に本ソフトウェアも起動されます。
正常に起動すると、タスクトレイにアイコンが表示されます。

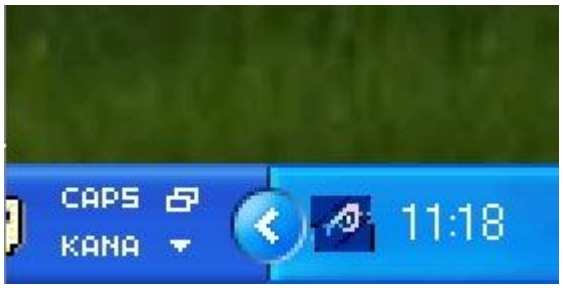


図3．3．１　タスクトレイ表示

3．3．２　アプリケーションの終了

タスクトレイに表示されているアイコンに、マウスカーソルを移動させます。
カーソルをアイコン上に置いた状態で、マウス右クリックをすると、
ポップアップメニューが表示され、終了を選択します。

図3．3．２　ポップアップメニュー表示

3．4　アプリケーションエラー

以下に、起動中のアプリケーションエラーについて説明します。

3．4．1　USBデバイスがPCに接続されていない場合

アプリケーション起動時、USBデバイスがPCに接続されていない場合は
図3．4．1のバルーンヘルプを表示し、プログラムは終了します。

図3．4．1　デバイスエラー

3．4．2　USBデバイスが取り外された場合

プログラム起動中に、USBデバイスが取り外された場合は
図3．4．2のバルーンヘルプを表示し、プログラムを終了します。

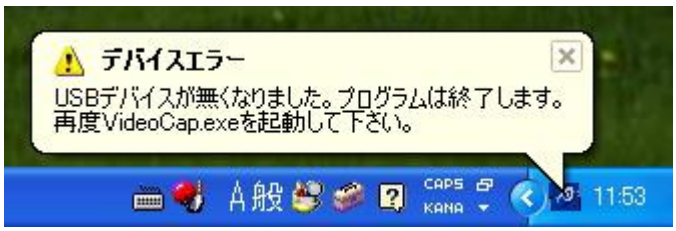


図3．4．2　デバイスエラー

※注意：USBデバイスを外す場合は、管理運用ソフトウェアを「検知停止」にしてから行ってください。
「検知停止」をしないでUSBデバイスを外した場合は、正常にキャプチャされません。

3．4．3　HDD領域不足の場合

プログラム起動中に、HDD領域が不足した場合は運用管理ソフトウェアにHDD 領域不足を通知し、
プログラムを終了します。
また、管理運用ソフトウェアもこの通知を受信した時に操作者に対しメッセージを表示し、
プログラムを終了します。
このメッセージが表示された時はHDDの容量確保、整理を行ってから再起動を行ってください。

4. 補足説明

4. 1　ログに付加される日付時刻について

メイン画面のログに付加される日付時刻はPCの時刻が付加されます。
通常アラームはマスク機能によって通知される時刻が変動しますのでログ通知時の時刻にプラスして
実際に発生した日付時刻をログ内容に記載しています。

以下に表示時の例を示します。

日付時刻付加例

上記例では音声Ch1及び音声Ch2に音声エンベデッドエラー時のマスクが1秒かかっており、エラーが継続しているため13:21:56にエラーが実発生したにもかかわらず、13:56:57に通知が行われています。

4. 2　マスク機能

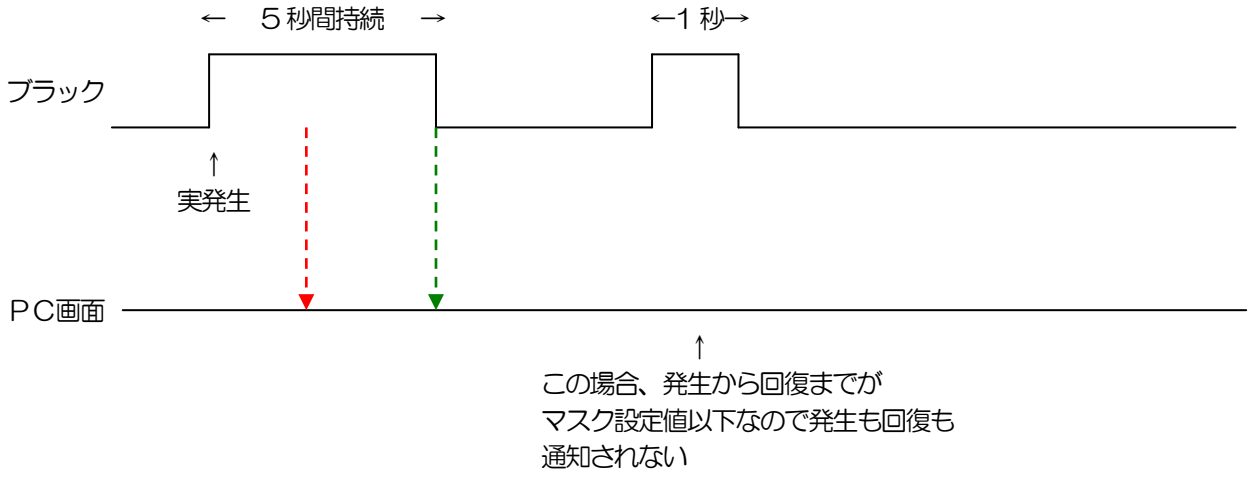
通常エラー時、エラーの通知を設定した時間だけ抑制してから表示させることができます。
抑制を行う時間の設定はマスク設定画面で行います。
マスク機能の動作は以下の通りです。（VITC項目は秒設定ではなく抑制可否の設定です）

①マスク設定画面にて抑制を行いたいハードウェア、エラー項目を選択し、抑制時間（単位：秒）を設定します。この画面では詳細項目を設定した後は必ず更新ボタンをクリックする事に注意してください。更新ボタンクリックする事によりマスク設定値が有効となります。

②検知開始を実行し、ハードウェアからエラーが通知されると、該当のエラー項目に設定したマスク値分だけ待ち合わせてから監視論理が実行されます。
なお、待ち合わせ時間中に該当エラーが回復した場合、エラーは通知されません。

以下にマスク機能の実行例を示します。

※　ブラックエラーマスク値2秒　で設定されていた場合



4．３　ハードウェアの時刻

ハードウェアは独自に時計機能を持っていますが、外部から設定を行わないと正しい時刻となりません。運用ソフトでは常にハードウェアが正しい時刻を付加できるよう定期的にＰＣの内部時計を使用して時刻合わせを行っています。

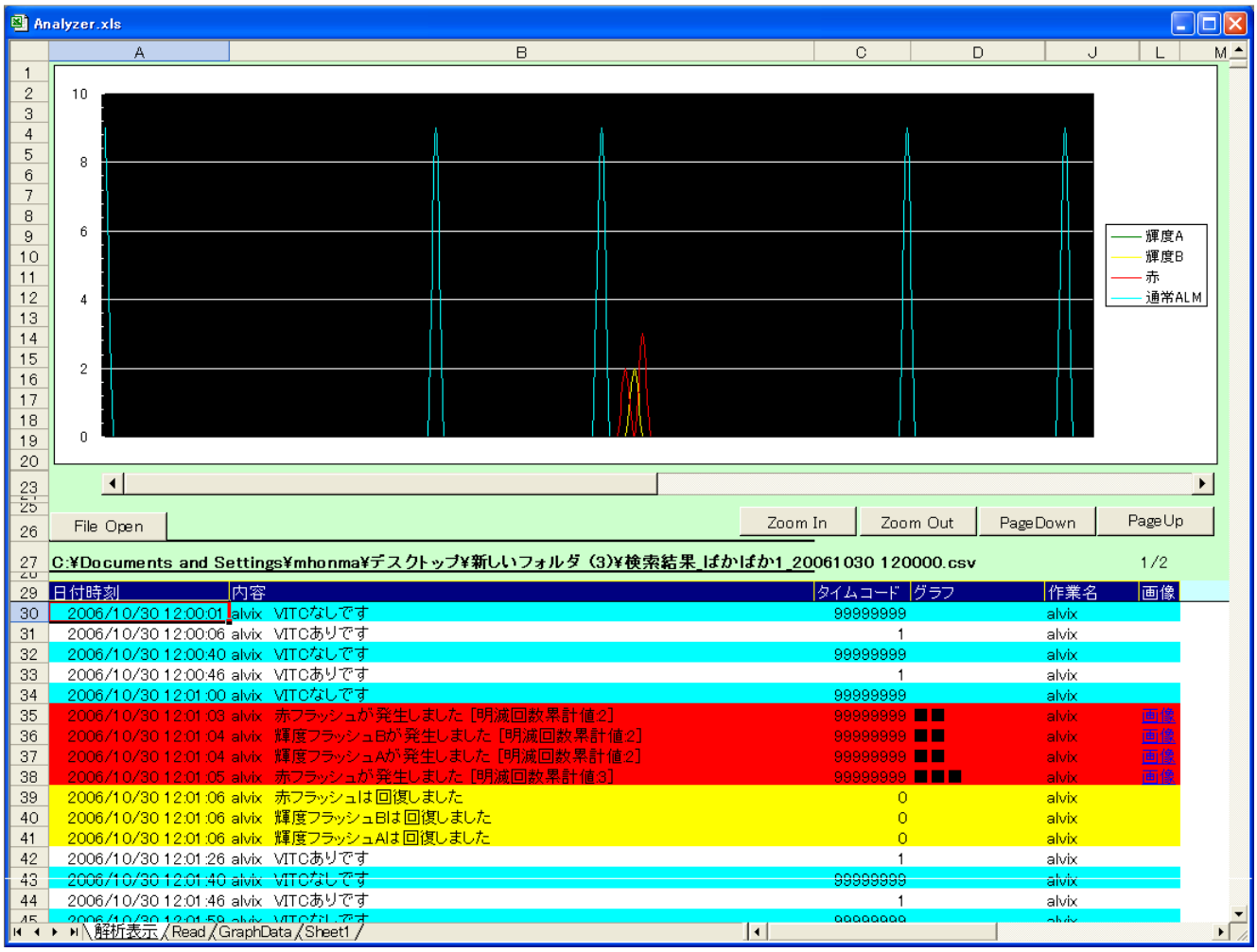
4．４　ログ保存後のファイル取り扱い

ログファイルは保存先フォルダを指定する事が可能です。したがって、USB メモリ等に保存先を指定し、保存ファイルを外部に持ち出して解析する事が可能となります。（XLS ファイルを表示できるソフトが必要）保存されたファイルは以下の通りとなります。

・ログ CSV ファイル(検索結果保存ログ)
・再生用 AVI ファイル
・表示用サムネイル画像(表示単位毎にフォルダ分け)
・表示用 HTML ファイル
・解析用プログラム(Analyzer.xls)

解析時は解析用プログラムを Microsoft　Excel 等で起動する事により解析が開始されます。

以下に解析画面の例を示します。



キャプチャファイルの再生時は「画像」リンクをクリックする事によりブラウザが起動し、ブラウザ上でファイル再生、サムネイルの表示が行われます。

以下にイメージを示します。

「表示切替」ボタンはメディアプレーヤを消去します。印刷時等、メディアプレーヤを表示したくない時に使用します。再度クリックする事によりメディアプレーヤが表示されます。

5. 資料

5. 1 設定ファイル

運用ソフトウェアで使用する設定ファイルの種類と設定内容を説明します。

このファイルはソフトウェアで更新管理しますので手動で変更しないでください。

使用 CSV ファイル一覧

No.	ファイル名称	使用目的
1	AlmLog.csv	ログに表示するアラームログ文言の設定が保存されています
2	AlmLogColor.csv	アラームログ文言の色設定が保存されています
3	AlmSts.csv	エラーステータス表示のヘッダ情報を保存しています
4	AlmStsOID.csv	アラーム情報の OID 情報を保存しています
5	IP.csv	VAD-300 の IP アドレスとチャンネル名称を保存しています
6	Level.csv	測定レベル表示のヘッダ情報を保存しています
7	LevelOID.csv	測定レベル表示の OID 情報を保存しています
8	MaskSet.csv	マスク設定情報を保存しています
9	PatAlarmSet.csv	アラーム別のパトライト動作を保存しています。
10	shikii.csv	しきい値設定情報を保存しています
11	shikiiOID.csv	しきい値設定の OID 情報を保存しています
12	StsDisplayOID.csv	内部使用しているアラーム監視用データを保存しています
13	TimeOID.csv	時刻設定用 OID 情報を保存しています
14	VerOID.csv	バージョン参照用 OID を保存しています

使用 ini ファイル（FlDetect.ini）内容説明

セクション名	キー名	内容
ChannelCount	ChannelCount	運用ソフト上の監視対象チャンネル数
SYSTEM	DBG	デバッグモード　0:運用モード　1:DBG モード
	CAP	キャプチャ機能使用　0:キャプチャ機能なし　1:キャプチャ機能有り
	PatLight	パトライト　0:使用しない　1:使用する
	TimeSet	PC 時刻補正　0:行わない　1:行う
	Community	SNMP コミュニティ文字列
LogSetting	Log_ChkBox	ログの保存可否　0:保存しない　1:保存する
	Log_RadioGroup	未使用(1:固定)
	Log_Folder	ログを保存するフォルダ
ReadSetting	Read_ChkBox	未使用(0:固定)
Mode	Mode	運用モード　0:送出検知モード　1:バンク検知モード
CountBorder	KidoA	パカパカ A　グラフ表示のボーダー回数設定
	KidoB	パカパカ B　グラフ表示のボーダー回数設定
	Aka	パカパカ赤　グラフ表示のボーダー回数設定
AVI	Ch	キャプチャを実行するチャンネル番号
	FrameSize	キャプチャのフレームサイズ　0:160*120　1:320:240(ｷｬﾌﾟﾁｬｿﾌﾄも参照)
	FileCount	未使用(0 固定)
	Folder	AVI ファイルを保存するフォルダ(ｷｬﾌﾟﾁｬｿﾌﾄも参照)
アラーム	CheckBox	アラーム音を鳴動可否　0:鳴らさない　1:鳴らす
	Freq	アラーム音のベース周波数
	Duration	アラーム音を鳴らす時間(1 固定)
PatLight	IP	パトライトの IP アドレス
	Port	パトライトのポート番号
	Time	パトライトの動作継続時間

セクション名	キー名	内容
Time	RadioBtn1	NTP サーバを使用して PC 時刻補正　0:行わない　1:行う
	RadioBtn2	HTTP を使用して PC 時刻補正　0:行わない　1:行う
	RadioBtn3	PC 時刻補正　0: 行う　1: 行わない
	Edit1	NTP サーバの IP アドレス
	Edit2	Web サーバの URL または IP アドレス
	Edit3	Web サーバのポート番号
	RadioBtn4	時刻補正の契機１日２回　0: 行う　1: 行わない
	RadioBtn5	時刻補正の契機１日１回　0: 行う　1: 行わない
	RadioBtn6	時刻補正の契機 経過時間　0: 行う　1: 行わない
	Spin1	時刻補正の契機１日２回の時間１
	Spin2	時刻補正の契機１日２回の時間２
	Spin3	時刻補正の契機１日１回の時間
	Spin4	時刻補正の契機 経過時間

Template.txt はブラウザ表示用のテンプレートファイルです。手動での削除、変更は行わないでください。
Cap.ini はキャプチャソフトウェアで使用します。手動での削除、変更は行わないでください。
動作不良の原因となります。

５．２　初期設定値

運用ソフトウェアのしきい値の初期値を表５．２－１に、マスク値の初期値を表５．２－２及び表５．２－３に示します。

表５．２－１　監視しきい値初期値一覧

大項目	中項目	小項目	設定値
輝度色差レベル	輝度レベル	最大値	２４６
		最小値	８
	色差レベル	最大値	２４６
		最小値	８
パカパカエラー	パカパカＡ	輝度信号レベル差	１０％
		検知面積	２５％
		点滅回数	１回
	パカパカＢ	輝度信号レベル差	２０％
		検知面積	２５％
		点滅回数	１回
	パカパカ赤	輝度信号レベル差	２０％
		検知面積	２０％
		点滅回数	１回
	パカパカ無しを検知するフィールド数		３０回
音声エラー	Ｃｈ１	最小値	－４５ｄＢ
		最大値	－５ｄＢ
		検知設定	ＯＮ
	Ｃｈ２	最小値	－４５ｄＢ
		最大値	－５ｄＢ
		検知設定	ＯＮ
	Ｃｈ３	最小値	－４５ｄＢ
		最大値	－５ｄＢ
		検知設定	ＯＦＦ
	Ｃｈ４	最小値	－４５ｄＢ
		最大値	－５ｄＢ
		検知設定	ＯＦＦ
	Ｃｈ５	最小値	－４５ｄＢ
		最大値	－５ｄＢ
		検知設定	ＯＦＦ
	Ｃｈ６	最小値	－４５ｄＢ
		最大値	－５ｄＢ
		検知設定	ＯＦＦ
	Ｃｈ７	最小値	－４５ｄＢ
		最大値	－５ｄＢ
		検知設定	ＯＦＦ
	Ｃｈ８	最小値	－４５ｄＢ
		最大値	－５ｄＢ
		検知設定	ＯＦＦ
通知とタイムコード	Ｔｒａｐによる通知		行う
	HD－SDＩ入力時	タイムコード選択	ＬＴＣ
パカパカ回数ボーダー	パカパカA		5回
	パカパカB		3回
	パカパカ赤		3回
エラーマーカー設定			ＯＮ

表5．2－2　マスク値初期値一覧（パカパカ専用モード時）

中項目	小項目	設定値（秒）
映像ステータス（イメージ）	ブラック	0
	フリーズ	0
映像ステータス（レベル）	輝度レベルエラー	0
	色差レベルエラー	0
	輝度／色差レベルエラー	0
音声Ｃｈ１ステータス	無音	0
	レベル低	0
	レベル高	0
	無音エンベデッド無	0
	１ｋＨｚ	0
音声Ｃｈ２ステータス	無音	0
	レベル低	0
	レベル高	0
	無音エンベデッド無	0
	１ｋＨｚ	0
音声Ｃｈ３ステータス	無音	0
	レベル低	0
	レベル高	0
	無音エンベデッド無	0
音声Ｃｈ４ステータス	無音	0
	レベル低	0
	レベル高	0
	無音エンベデッド無	0
音声Ｃｈ５ステータス	無音	0
	レベル低	0
	レベル高	0
	無音エンベデッド無	0
音声Ｃｈ６ステータス	無音	0
	レベル低	0
	レベル高	0
	無音エンベデッド無	0
音声Ｃｈ７ステータス	無音	0
	レベル低	0
	レベル高	0
	無音エンベデッド無	0
音声Ｃｈ８ステータス	無音	0
	レベル低	0
	レベル高	0
	無音エンベデッド無	0
音声フェーズＣｈ１／Ｃｈ２		0
音声フェーズＣｈ３／Ｃｈ４		0
音声フェーズＣｈ５／Ｃｈ６		0
音声フェーズＣｈ７／Ｃｈ８		0
ＶＩＴＣの有無		1
ＶＩＴＣの状態		1

表5．2－3　マスク値初期値一覧（パカパカ&通常エラー併用モード時）

大項目	中項目	設定値（秒）
映像ステータス（イメージ）	ブラック	40
	フリーズ	40
映像ステータス（レベル）	輝度レベルエラー	40
	色差レベルエラー	40
	輝度／色差レベルエラー	40
音声Ｃｈ１ステータス	無音	30
	レベル低	30
	レベル高	30
	無音エンベデッド無	30
	１ｋＨｚ	30
音声Ｃｈ２ステータス	無音	30
	レベル低	30
	レベル高	30
	無音エンベデッド無	30
	１ｋＨｚ	30
音声Ｃｈ３ステータス	無音	0
	レベル低	0
	レベル高	0
	無音エンベデッド無	0
音声Ｃｈ４ステータス	無音	0
	レベル低	0
	レベル高	0
	無音エンベデッド無	0
音声Ｃｈ５ステータス	無音	0
	レベル低	0
	レベル高	0
	無音エンベデッド無	0
音声Ｃｈ６ステータス	無音	0
	レベル低	0
	レベル高	0
	無音エンベデッド無	0
音声Ｃｈ７ステータス	無音	0
	レベル低	0
	レベル高	0
	無音エンベデッド無	0
音声Ｃｈ８ステータス	無音	0
	レベル低	0
	レベル高	0
	無音エンベデッド無	0
音声フェーズＣｈ１／Ｃｈ２		30
音声フェーズＣｈ３／Ｃｈ４		0
音声フェーズＣｈ５／Ｃｈ６		0
音声フェーズＣｈ７／Ｃｈ８		0
ＶＩＴＣの有無		1
ＶＩＴＣの状態		1

6. 検知作業手順

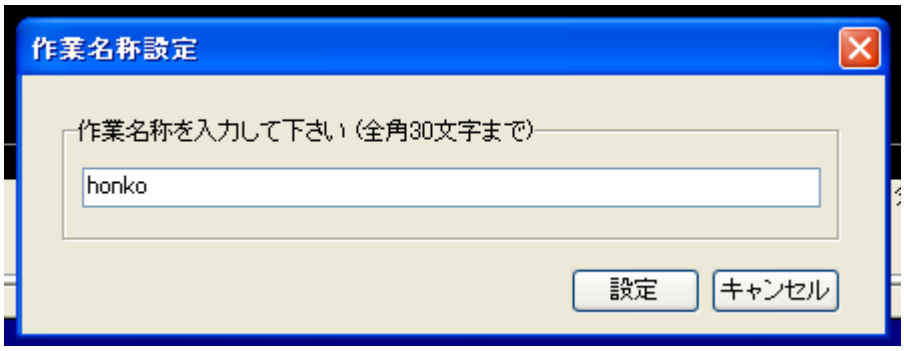
6. 1　検知作業手順（バンク検知モード）

※バンク検知モード設定は、2. 22動作モード設定画面（P. 39）をご参照ください。

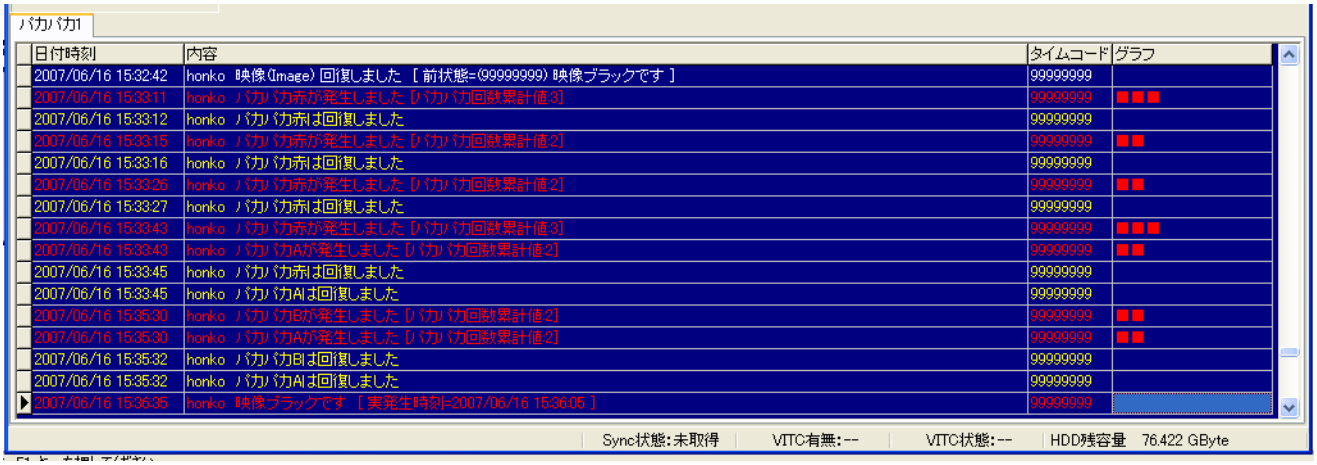
1）検知開始ボタンをクリックして検知作業を開始します。

※素材がきちんと入力されているかどうかは、キャプチャプレビューを押して確認することができます。

2）下記のような作業名称設定画面が表示されますので、素材名称などを入力してください。



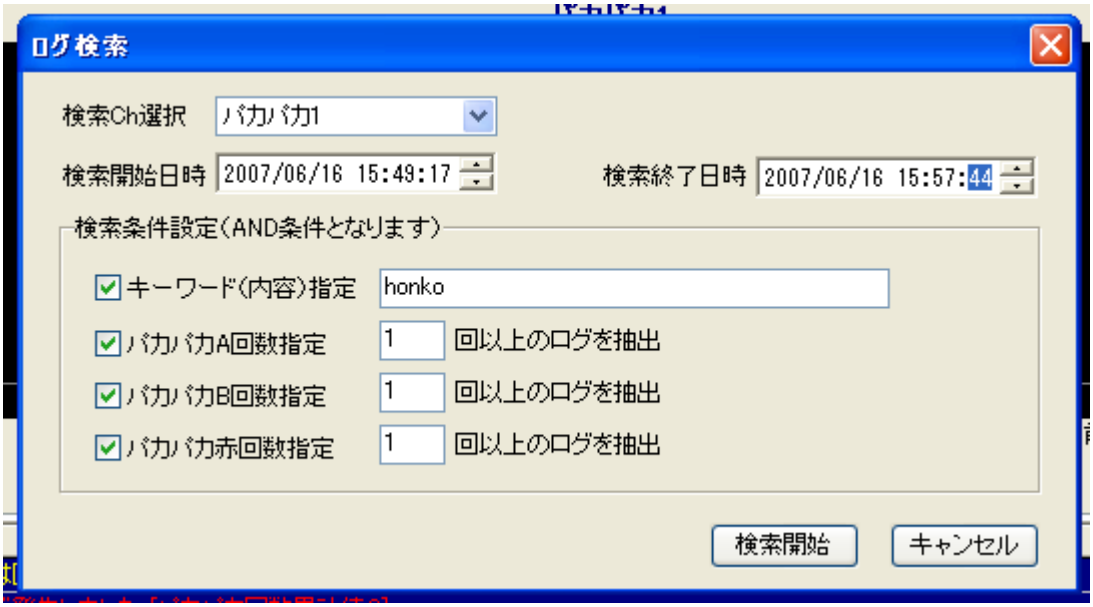
3）「設定」をクリックするとエラー検知が開始され、エラーログに下記のように作業名がスタンプされます。



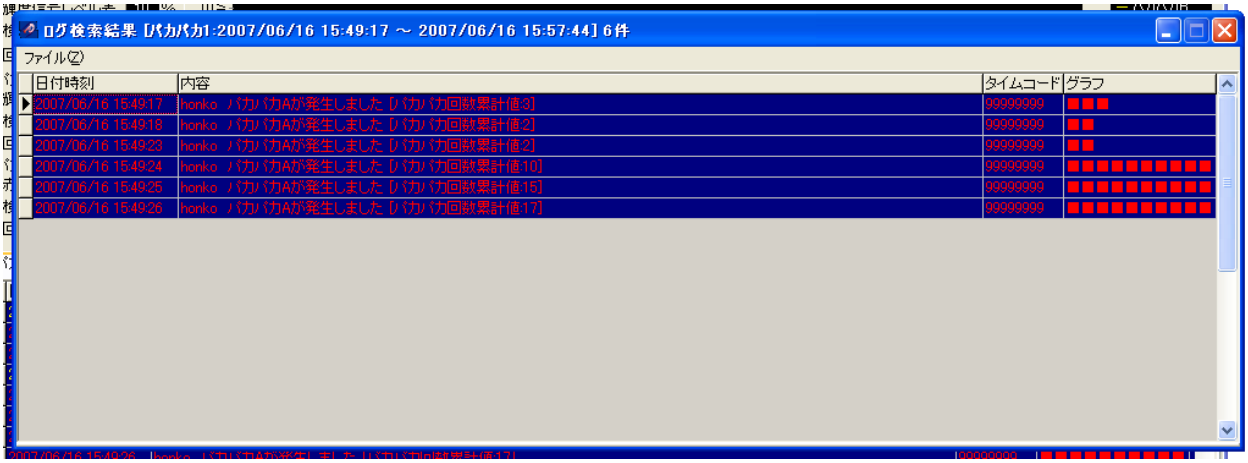
4）エラー検知を終了させる場合は、検知停止をクリックします。

6．2　検知結果の保存

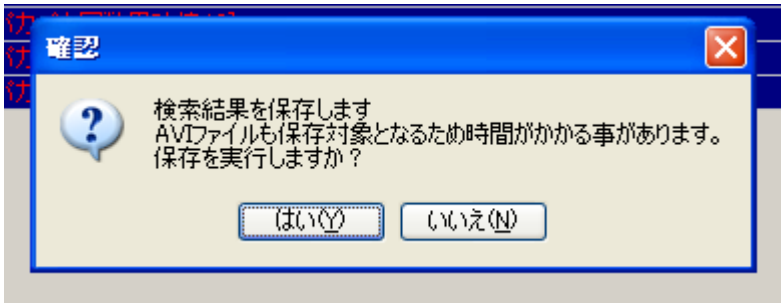
1）メニューの　ログ　→　ログ検索　をクリックすると下記画面が表示されますので、
さきほど入力した作業名をキーワード指定の箇所に入力し、「検索開始」をクリックします。



2）下記のように指定した作業名のエラーのみが検索されますので、　「ファイル」→「保存」を
クリックします。



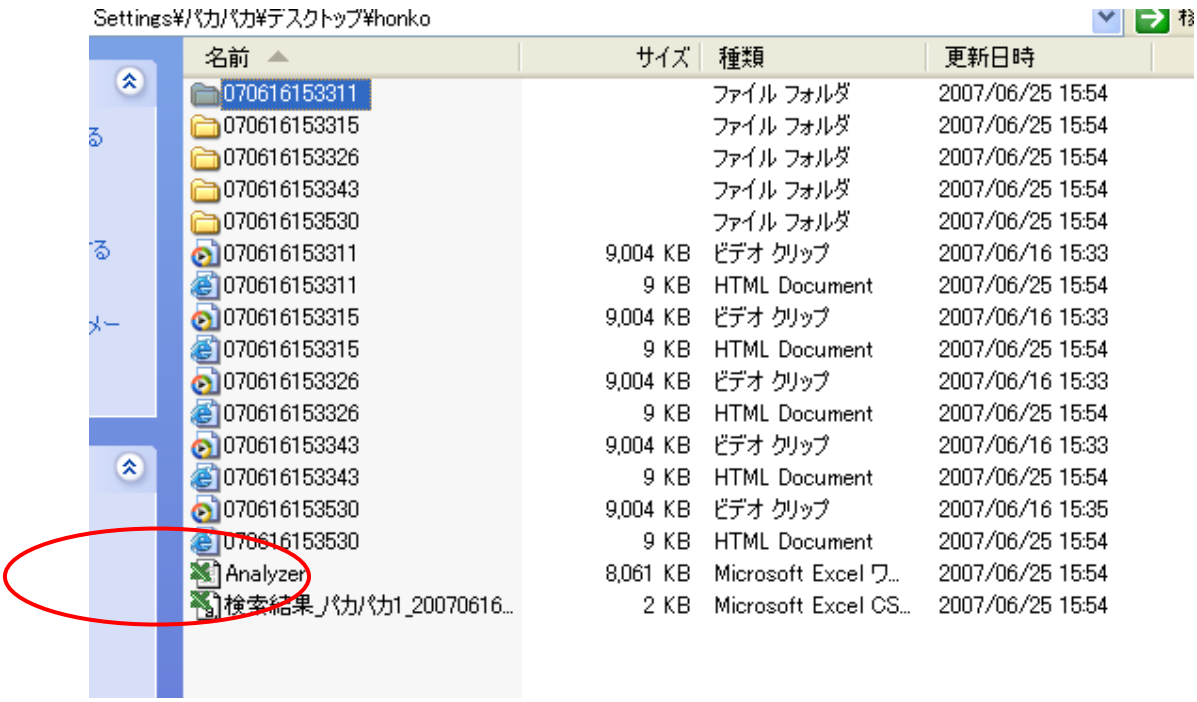
3）下記画面が表示されます。「はい」をクリックします。



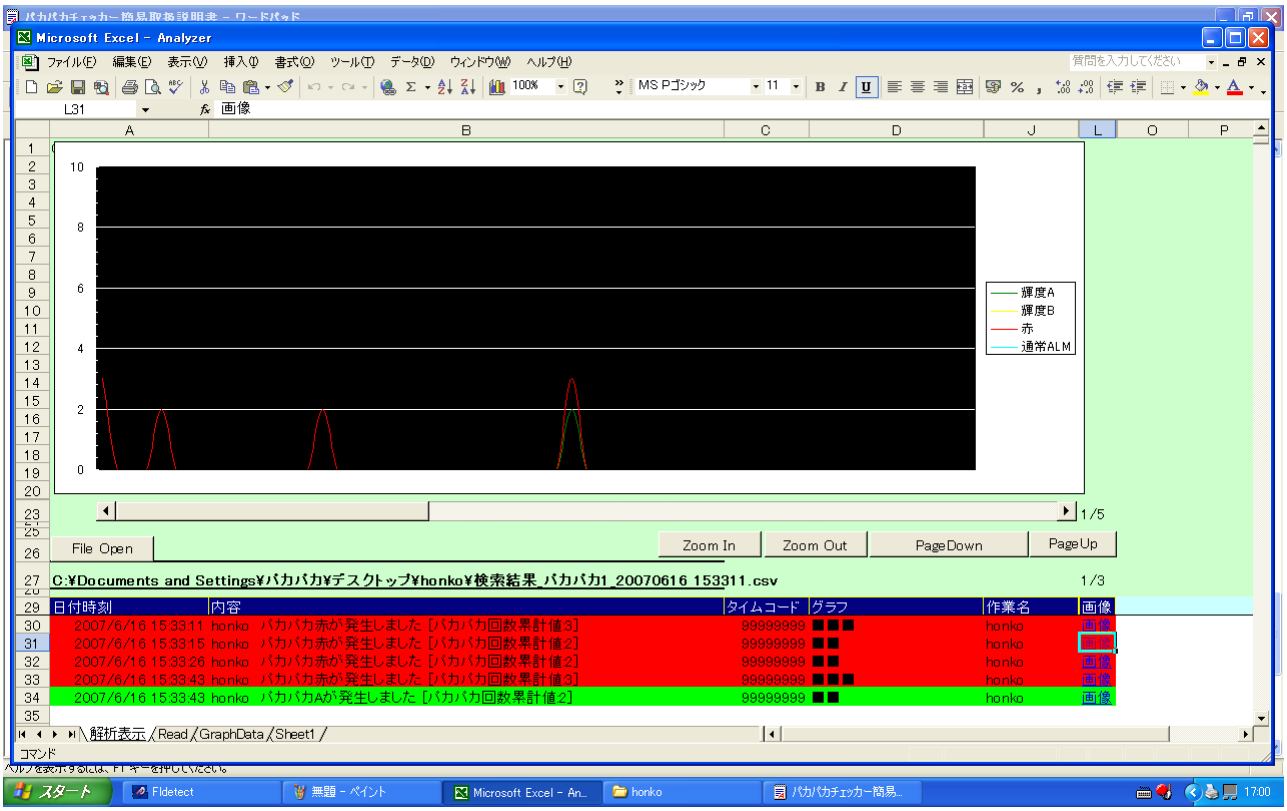
4）指定されたフォルダ配下の作業名と同じ名前のフォルダを作成し、「OK」をクリックします。

6．3　検知結果の閲覧

1）保存したフォルダの中の「Analyzer.xls」をMSエクセルにて起動します。



2）下記のような画面が起動されます。



3）ログの右端の「画像」リンクをクリックすることによりブラウザが起動し、ブラウザ上でファイル再生、サムネイルの表示が行われます。

「表示切替」ボタンで、サムネイル画像のみになります。プリントアウトなどの際に便利です。

お問い合わせ先

お買い上げいただきました弊社製品についてのアフターサービスは、お買い上げの販売店におたずねください。

なお、販売店が不明の場合は弊社へお手数でもご連絡ください。

故障・保守サービスのお問い合わせは

販売店：

ＴＥＬ

担　当

製品の操作方法に関するお問い合わせは

無断転載禁止

アルビクス株式会社

〒959−0214
新潟県燕市吉田法花堂１９７４−１
ＴＥＬ：0256−93−5035
ＦＡＸ：0256−93−5038